

②



* 0000704000 *

0000704-000

302. 22-H232s2

支那人に接する心得

原口統太郎・著

実業之日本社

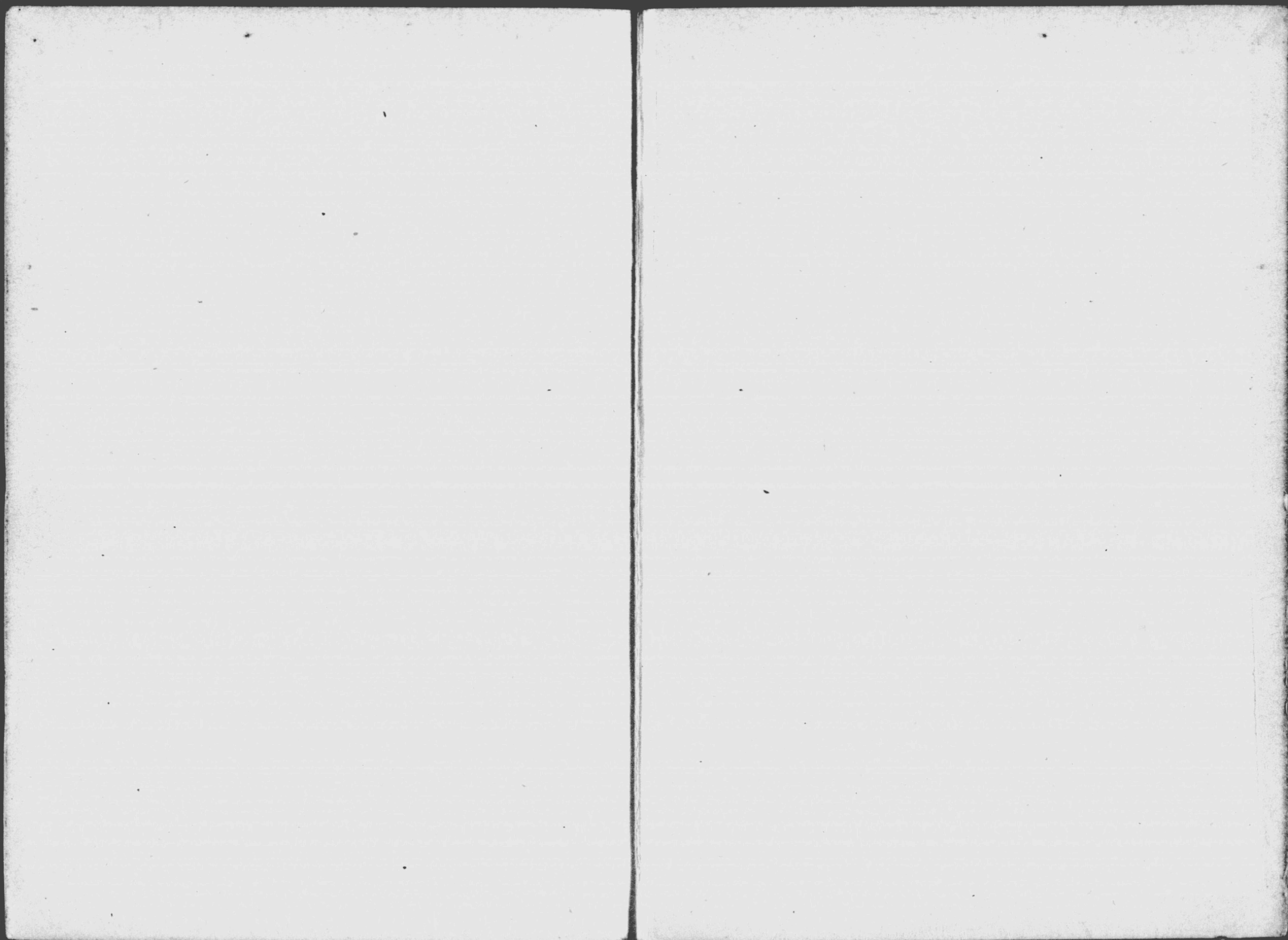
15版

1942

AAB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年3月23日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

支那人に接する心得



原口統太郎著

支那人に接する心得

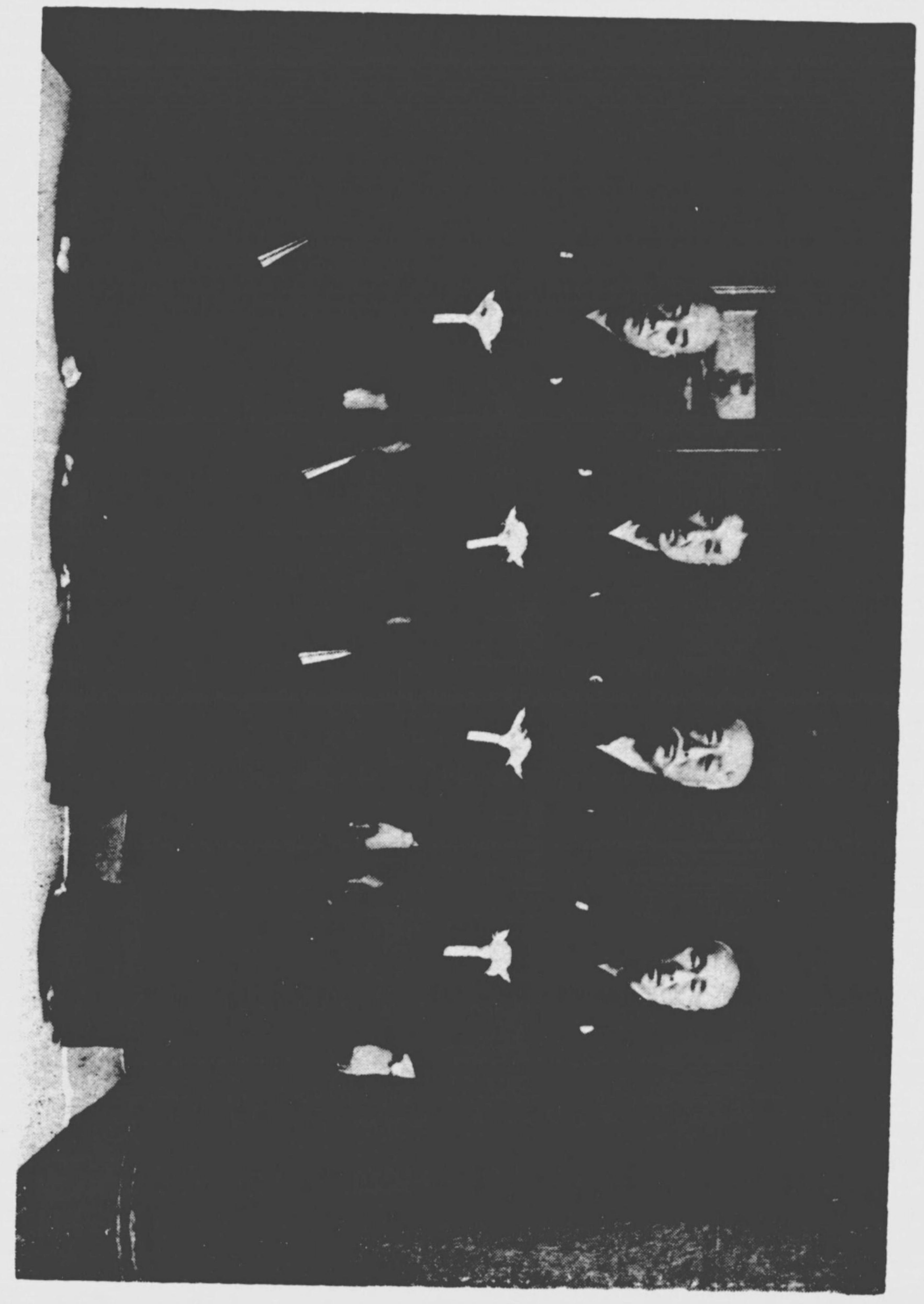
實業之日本社發行

302.22

H23252



705828



日滿支人親善之姿

序

支那事變はいよいよ長期戦となりつゝあるが、然し、いつの日にかは何れ終焉すべきこの戦争である。而して、戦後に於て、來るべきを最も希求されるのは明朗支那であり、眞の日支親善關係であるが、これを齎らすためには、日本人が支那人の心理を理解して、よく、これを指導しなければならぬ。

原口統太郎君は北清事變の頃に支那へ渡り、その後四十餘年もの間、北支と滿洲のみに生活して來た人で、最初は支那人を教育するための學校を經營し、自ら教鞭を執り、後には實業に従事して數千人の支那人を使役し、

山東、河北、滿洲において開拓事業をやつたこともある。従つて支那人の生活、習慣、人情、風俗はもとより、その心理については最もよく理解してゐると思はれる人である。故に、この人が『支那人に接する心得』を書くことは寔に適當であり、本書の内容は將來對支經營に多少でも携はるものゝために參考となる點が非常に多いことと思ふ。

序……2

昭和十三年三月

松岡洋右

自序

本書は支那に居住し、支那人對手に仕事をして行かうとする人々の爲めの各般にわたつての心得書であり、著者の老婆心を述べたものである。されば「言葉篇」といつても支那語を並べたのではなく、「風俗篇」にしても在來の陳腐な視察記ではない。既に多數の著書に記載せられて、珍聞に値せぬことはこれを省略し、なるべく興味ある話のみを選んだ點は、各題名を見ても直ぐに分るであらう。殊に「思想篇」に至つて、複雑なる支那人の心理解剖に努力したつもりである。從來誰もが未だ言及しない所まで、

掘り下げて見た點もあるので、自然著者の主觀に過ぎない意見も多くあるであらう。これは讀者自らの今後の研究により、正鵠な斷案を下してもらはねばならぬ。結末の「交際篇」と「主張篇」とが、著者の讀者に對する主なる目的である。これを讀んで、舊き支那通連が大分逆耳の感があるであらうが、恕してもらひたい。

今次の事變に當り、これほどの大戦争をなしつゝ、日本人の誰一人も、目前の支那人に惡感を抱く者がない。日清戦争には「ちやんころ」、日露戦役には「露助」などいふ惡口が流行したが、今度は支那人を指して何の新語も生れない。たとへ支那大衆を敵としてゐないとはいへ、なか

日本人も大きくなつたものである。今後國內よりは海外が大事になつた大日本、この態度、この肚があつて然る可きである。將來の吾々は何として名實共に益々大國民となり、須らく世界を皇道精神化し、以て人類生成發展の原動力とならねばならぬ。畏くも

明治天皇は

ひさかたの空はへだてもなかりけり

つちなる國はさかひあれども

と仰せられてゐる。何と宏大にして無邊な宇宙眞理を喝破あらせられた御歌ではないか。大御心を拜察し奉り肅然として頭が下がる。今や、吾人

は在來の偏狹な島國根性の殻を破つて、支那に對するちつぽけな感情などに、拘泥してはゐられぬ。宜しく支那人を愛撫善導して、東洋平和の基本である日支親善を、行の上に確然と實現させねばならぬ。日本人よ大きくなれ、もつともつと大きくなれ。

昭和十三年建國祭の日

原口統太郎

合掌

序 自……4

目次

第一 言葉篇

1	下手な支那語は使ふな……………	三
2	日本人の支那語……………	一〇
3	あなたといふ語が大事……………	一三
4	吃了飯了麼(今日は)……………	一六
5	支那語には反語が多い……………	一九
6	漢字の解釋を新たにせよ……………	二三

1……次

目

第二 風俗篇

7	漢文と漢詩……………	二七
8	漢文と今の支那文……………	二九
9	支那文章は音調を尊ぶ……………	三三
10	支那の虚禮と辭令……………	三七
11	役人と軍人は鼻つまみ……………	四〇
12	彼等の惡習を氣にするな……………	四三
13	支那人の不潔……………	四五
14	何でも金に換へて聽く……………	四八

15	支那人の面子……………	五〇
16	買物の頭をはねる……………	五三
17	支那人の泥棒心……………	五五
18	今でも毒殺が流行する……………	五七
19	蓄妾は支那男子の重荷……………	六〇
20	匪賊の種類……………	六三
21	支那を比喻して散砂と言ふ……………	六六
22	支那の黨會……………	七一
23	支那人は謠言を信用する……………	七四
24	自治制の發達と會……………	七八

25	支那人の義捐寄附	七六
26	支那人の貧乏力	八〇
27	支那婦人はよく憤死する	八三
28	お辭儀せぬ支那婦人	八六
29	支那婦人に御用心	八八
30	日本婦人は支那人に御用心	九一
31	心中(情死)せぬ支那婦人	九三
32	喜怒哀樂顔に出さず	九七
33	支那では日本より分業的	一〇〇
34	支那人に酔漢なし	一〇三

35	すべては賭博の生活	一〇四
36	支那官吏の公生活と私生活	一〇七
37	支那人の附合や義理	一一一
38	スピードと慢慢的	一一三
39	敬老の美風未だ存す	一一六
40	天下の美都北京	一二九
41	北支と南支	一三三
42	名前と號	一二六
43	夏と冬の服装に就て	一二八

第三 思想篇

44 利己的個人主義の彼等……………一三五

45 複雑なる支那人の心理……………一四一

46 孔子老子の言葉の裏……………一四四

47 支那人の信用……………一五四

48 報恩感謝の念に就て……………一五七

49 支那人は向上心に乏し……………一六〇

50 沒法子と宿命觀……………一六三

51 皇道と王道と道教……………一六六

52 支那人の殘忍性……………一七三

53 支那人の死生觀と天命說その他……………一七八

54 死にも生にも強き支那人……………一八七

55 彼等は秘密をよく守る……………一九二

56 和平手段は支那人の狙ひどころ……………一九四

57 南方支那人の一般性格……………一九六

58 支那思想と兵亂の關係……………一九八

59 宣傳上手は天下一品……………二〇〇

60 國事を嫌ふ支那人……………二〇三

61 支那に輿論があるか……………二〇七

第四 交際篇

62	滿洲青年の純真……………	二一〇
63	支那人に何の無禮かある……………	二二二
64	一支那人の無遠慮な日本人評……………	二二五
65	支那の孝道……………	二二八
66	處世術としての我不關焉……………	二三四
67	支那大陸の悠久と民族性……………	二三〇
68	與へよ貰ふな……………	二三九
69	親切の押賣をするな……………	二四四

70	惜みなく金を撒け……………	二四七
71	人の評判をするな……………	二五〇
72	一々答禮が肝腎……………	二五二
73	初對面の挨拶に就て……………	二五四
74	支那人に支那人と言ふな……………	二五六
75	激烈な言葉を慎しめ……………	二五八
76	交際を深めて行くのは慢慢的……………	二六一
77	支那人は吾々の兄弟分である……………	二六三
78	支那人個人に友達を作れ……………	二六六
79	推薦、招待、三四度は辭退す……………	二六九

第五 主張篇

80 支那人との交際往來が足らぬ……………二七一

81 今次事變の目標……………二七五

82 日本人の優越感……………二七八

83 お國自慢は禁物……………二八一

84 全部を搾取するな……………二八三

85 支那人を多く使用せよ……………二八六

86 ロックフェラーの慈善事業……………二九〇

87 眞に五分五分に共同せよ……………二九二

88 支那人に腹心を作れ……………二九五

89 支那人の取扱ひ方はどうか……………二九七

90 日本の宗教家よ、惰眠を醒ませ……………三〇〇

91 日本人と歐米人との對照……………三〇五

92 支那で毛唐を眞似るな……………三〇八

93 支那はなぜ吾々に住み好い乎……………三一〇

94 在支同胞もつと一致せよ……………三二三

95 皇道で導き儒教で提携……………三二五

96 大國民らしき態度を持て……………三三三

97 彼我習性の不調和點……………三三五

1. 下手な支那語は使ふな

今から約四十年前、即ち明治三十三年北清事變（義和團戦争）に自分は從軍し觀戦したが、その時の聯合軍は世界各國十數ヶ國の兵が部署を分けて義和團と天津北京の間に於て激戦を交へたのである。恰も世界中の兵隊の展覽會同然であつた。その時、自分は西洋文明が假面であることを深く認識した。といふのは西洋の兵は實に亂暴極まりなく、中にも露、佛の兵と來ては、掠奪、強姦、無辜の人民を殺戮すること限りなく、支那兵と大同小異であつた。かの通州の如きは佛蘭西軍が占領したのであるが、人民

は大部分逃げ去り、逃げ後れた婦女子三百人程は皆大きな水瓶に水を湛へ、それに倒さまに首を突込んで、悉く哀れ自殺を遂げてゐた。自分はその直後に通州を通過したが、實に慘鼻目を蔽はしめた。かく西洋各國兵の野蠻行爲に引代へて、日本兵は誠に上品で、軍律正しく殆ど不法行爲もしなかつた。現に北京の宮城を日本兵が占領した爲めに何等荒されることもなく逃げ後れた多數の女官達も生命を全うしたのであつた。

その時の日本軍の正義な戦ひを今日京津の人士が記憶して居つたならばと残念に思ふ。何が故に今事變の通州虐殺事件は起つたのであらうか、江戸の仇を長崎ではない、佛蘭西の仇を四十年目に日本に持つて來るとは餘りに酷い。憤慨せざるを得ない。以上事の序の述懐談であるが、當時自分

は一の奇現象を發見した。戦敗の民支那人に向つて、各國兵が皆自國語を以て解つても解らなくても押通したのに、ひとり日本兵のみは、なるべく日本語を用ひようとせず、務めて分りもしない聽きかじりの支那語を使ふ者ばかりであつた。自分はこれを見て、日本人の不見識さにつく／＼情なかつた。日本人は何故に、かく日本語を重んぜぬのだらうか。自尊心の薄弱なこと夥しい。日本兵は初めて國際上に出た、白面のお坊ちやんだなあと、各國兵の間に挟まつて身の引ける思ひをしたのである。

この日本語を使ひたがらぬ日本人の習慣は、今以て滿洲でも繼續してゐる。滿洲に行つて見るがよい、多數の日本人は日本人の作つた一種變挺古な支那語、「ニーヤボコペン」といふやうな言葉で支那人と盛に話を交へて

る。左に記す日滿チャンポンの言葉は面白いその一例である。

我的が昨天你呀に今天快快乐快的來と説話したのに你呀が慢慢的來だから
不設本ぢやないか

こんなのは自然の現象かも知れぬ。然し、日本人の不見識、卑屈さ加減
餘りに酷いと思ふ。かかる下卑た變挺古なチャンポン語で話しかけて相手
の支那人が吾々を尊敬するであらうか。これで日本人の威嚴を保つことが
出来るであらうか。分り切つたことである。然るに、反對に意外なことに
は、支那人が吾々に向つて話す時はどうであるか。彼等はなるべく日本語
を使はない。徹頭徹尾自國語支那語で通してゐるのである。一から十まで
支那人に對して優越感を持つてゐる日本人が、國語を使ふことだけは何故

にかく卑屈であるのだらうか。不可解に堪へぬ。この間も或軍人に會つた
ら「ニイヤ」といふ支那語は使つちやいけないのですかとの質問を受けた。
我輩答へて曰く、支那人から君と呼びかけられてよい感じがしますか、ニ
イヤ」といふ言葉はその日本語の君より、まだ下卑た言葉です。あなたは
何の必要があつて生嚙りの支那語を使はねばならぬか。日本語でなぜ話さ
ないのかと答へたやうな次第である。

又、これは支那通の一民團長の話であつたが、或日本の總領事の令夫人
が官舎に使つてゐる支那ボーイに向つて「チャンコイ、まだ歸らないか」
といふのを聞いて、偶々支那語の解る自分は餘りの情けなさに涙が出る程
くやしかつたと嘆いてをつた。「掌櫃」の意味は日本語で「番頭」と譯し

てゐる。自分の夫であり、勅任官の總領事閣下を指して「番頭まだ歸らぬか」と言ふのを聽いて日本人たる者誰か憤慨せざらんやである。この令夫人の輕薄さも甚だしいが、なぜ通譯官にチャンコイの意味を日頃教へて貫はなかつたか。なぜ生嚙りの支那語を使はねばならなかつたか。何が故に「閣下はまだお歸へりにならぬか」と立派な日本語を使はないのか。かかる誤つべからざる過ちは西洋人間には絶對にないことを斷言して憚らぬ。既に世の中は一變した。英人が世界中を英語で押し通すやうに今後日本人は、支那人だけではない、相手が英人であらうと露西亞人であらうと、解らうと解るまいと頓着なしに日本語一天張で行くのが大日本人の見識でなければならぬ。と同時に今後の支那には日本語を大々的に普及させ

るのが急務中の一大急務である。今後五年間に少く共百萬人位の支那人に、日本語を教へる計畫を立て、欲しいものだ。又これは言葉ではないが、日本人が支那人に手紙を送る場合、翻譯家を探し、翻譯料を拂ひ、苦心して日本語を支那文に譯して貰つて出すのであるが、支那人で日本語を以て返事をくれる場合は少い。彼等は平氣で支那文の手紙を日本人に向つて送つてゐる有様だ、これも全くの事實である。日本人よ、今後の日本人はもつとく大國民にならねばならぬ。

好了疤了忘了疼

喉元過ぐれば熱さを忘れる

2. 日本人の支那語

同文同種と云ふことは便利でもあるが、これが却つて障碍になつてゐる場合がある。今日支那と戦はなければならぬやうになつたのも、或意味から言ふと、この同文同種が祟つてゐるとも言へる。兄弟垣に闘ぐ、つまり兄弟同志が餘りに勝手氣儘が過ぎたからとも言へる。同文同種と言ふが、どうも日本人には支那語の上手な者は少い。却つて西洋人の中に日本人以上に支那語を支那人そつくり話す達者な者が相当見受けられる。

元來、日本人は外國語は得意でないが、特に支那語は不得意であらう。

これは文字が同じいから、發音と調子が肝腎であるべき言葉を、文字を眼の方から先きに支那語を覚えてしまつて、その發音と調子を疎かにすると云ふ風があるからであらう。であるから、支那語を眼と頭で知つてゐる日本人は多いが、支那語を上手に話れる日本人は意外に少ない。まさしく之は文字を知つてゐる眼から來る弊害と言へる。その意味で、日本人に取つては支那語は入り易くて達し難い。

それ故、日本人の支那語は、調子が日本語の調子で、支那人に成り切つたやうな支那語の調子がない。支那語を稽古するのには、先づ調子が第一であるから、眼で支那語を覚えずして、歌の調子でも取るやうに、支那人の語調をよく真似てそれを繰返しく練習すべきである。

紙裏包不住火

火のない所に煙は立たぬ

3. あなたといふ語が大事

いらつしやい、御出なさい、来いと日本語の動詞は上下の別で色々に言へるが、支那語の動詞来といふ語は上下の差別なく誰が言つても同じく来である。それなら上品な語と、下品な語を支那語ではどうして分つかといふに、大體第二人称によつて區別する。即ち「あなた」といふ語が甚だ大事である。你、您、你老、掌櫃的、老爺、先生、閣下、大人など皆あなたの語に當るが、言ふまでもなく語は常に上品な語を使ふに如くはないから、いま茲に並べたあなたといふ語の區別と使ひ方を、よく先輩に教はる

がよい。満洲で日本人の支那語となつてしまつてゐる你呀なんか甚だ以て宜しからず、決して使ふべき語でない。

それから序に注意するが、支那語の先生と日本語の先生とは文字に於て同一だが意味の上には相當の隔りがある。日本語のセンセイは學校の先生や醫者などを職稱する外に、尊稱として使ふが、支那語のシエンシオンは、もつと使用範圍が廣く、もつと一般的で、日本語の普通「あなた」に相當し、〇〇さんの「さん」に當る。だから、たとへば田中先生は田中先生でなく、田中さんと意譯すべきだ。支那に行つた日本人が支那人から「シエンシオンく」と呼ばれるのを、「せんせいく」と尊稱されたと喜ぶ人があるが、大間違である。大體支那語の文字、殊に二字より出來てゐる

熟語の意味は、吾々としては直ちに日本流の字義を以て早合點せず、支那語の上から再検討すべきである。

人得其位、位得其人
適材適所

4. 吃了飯了麼(今日は)

これを直譯すれば「飯を食へましたか」となるが日本の「今日は」「今日は」「今晩は」の場合に使ふのである。チトをかしな挨拶語と吾々には思はれるが、彼れ是れ語源をせんさくするのは止める。それなら本當に飯を食へたかと尋ねる場合には、何と言ふかといふに、やはり同じ語であるが、其處にその場合々々で本當か挨拶かはちのづから分るのである。ただ吾々としてこの語を使はれた時の返答が肝腎だ。たとひそれが本當の質問であらうとも答へは常に同じで「偏過了」或は「完了完了」(済ませました)でなくてはなら

ぬ。さうすると向うで本當に飯を出したい時は、三たびも四たびも同じ事を繰返す。こちらもまげずに同じ答へをしようと云ふ具合にやる。さういふ空問答をやつてゐる内に、御馳走が出て來るといふ順序だ。

此處等が支那の虚禮と言へば言へるが、習慣的言葉だから所謂空念佛と思つて、何等氣にせず宜しく型通りやるがよい。よし腹が空いてならぬ時でも同一の答へであるのは勿論である。又濟ませましたと言ひつゝ、その内に出て來た御馳走は、遠慮なく食へて少しも差支へない。ただ向うで挨拶に言つたのを、こちらで「還沒哪」(まだです)と答へると、向うでは準備はなし、甚だ面喰らつてあわてるから、萬全の答へは常に「完了完了」でなくてはならない。

家花不及野花香

手に取るな、やはり野におけ蓮華草

5. 支那語には反語が多い

日本語で「さうだ」といふ場合に、支那語では「さうでないことはない」と答へる。「ある」といふ答の場合に「ないことはない」と答へる。「君行くか」と尋ねると「誰が行かぬと言うた」と答へる。と言ふ具合にどうも支那語には反語乃至否定語が多い。吾々日本人から聴くと、最初はさういふ意味の言葉が非常に強く響くけれども、支那語ではそれが寧ろ普通になつてゐる。これは支那人の複雑な性格乃至その消極的性格を現はしてゐるとも言へる。

御承知のやうに老莊の哲學は否定の哲學であり、説明は消極的である。魏晉以來唐初に至るまで支那南北の思想界は老子を宗とする道教であり、その後この思想は深く民心に食ひ入つてしまつたし、また佛教の否定的説明も大分影響して、このやうな言葉が好んで使用されるやうになつたのかも知れない。それは兎も角として、今はたゞ言葉使ひの習慣として、日常この反語乃至否定の言葉を使ふ場合が非常に多い。左に反語のいろ／＼なもの並べておくが所謂漢文によく出て来る「豈圖らんや」と云ふが如き語法はこの反語の上に最も多く使はれる言葉である。

可不是麼

左様だとも

沒有沒有的

ないことはない

誰知通

誰が知るもんか

誰說不去

行かぬと誰が言うた

豈有此理

そんなことがあるものか

好說好說

どうしまして

豈敢豈敢

どうしまして

未嘗不可

悪くはないね(御馳走しようか)

君子自重

此處大小便するな(壁によく張つてある、随分皮肉な反

語)

怎麼會沒有錢呢

どうして錢がないもんか

我怎麼好意思申叱

私がどうして叱りつける氣になれようか

豈不是這好大機會麼

何とこれは好い大機會ではないか

有甚麼老子有甚麼兒子

この親あつてこの子ありといふ立派な反語

6. 漢字の解釋を新たにせよ

吾々日本人が使つてゐる漢字の意味、用法と、支那人の使つてゐるそれとは、現在では大分違つてゐるものが澤山ある。殊に言葉に於て一層さうである。次に示す通り、單なる一字にして意味の違ひ用法の異なるのもあるが、二字以上から成つてゐる熟語には随分澤山ある。

であるから文章でもさうであるが、殊に支那語に於て、もう一度漢字の字義とその用法を新しく學ばねばならぬといふわけだ。從來の日本人流の漢字知識で、輕々しく支那人に向つて書いて見たり、話したりするのは

誤あやまりの素もとで危険きけんである。

裏うら内うち（うらはは後邊兒おちべ）

走ツォー歩あるく（走るはしるにあらず）

湯タン汁じゆ（日本湯にっぽんゆは開水カイシユイ）

肥フエイ馬ば、肥ひ肉にく（人ひとには胖パンを使つかふ）

赤チ色しよ、とびいろ（日本にっぽんの赤色あかいろは紅色ほんしよ）

手紙シヨウチ鼻紙はながみ又は便所紙べんじよがみ（信シンが手紙てがみ）

顔料イエンリヤウ繪具ゑのぐ（化粧品けしちひんにあらず）

買賣マイバイ商賣しょうばい（賣買ばいばいと言はず）

介紹チエシヤウ紹介せうかい（シヤオチエと言はず）

弟兄チイシユン兄弟きょうだい（兄弟シユンチイは日本にっぽんの弟おとうと）

妹妹マイメイ妹いもうと（一字いちじの發音はつおんでは通つうぜぬ）

解手チエシオウ小便せうべんする

東洋トシヤン日本にっぽん（日本にっぽんでいふ東洋とうやうは普通ふつう東方トシヤンといふ）

缺款チエコワン貸付金かしつけきん

告訴カオツ告つげる、〇〇に知しらす（訴うたへるの意いにあらず）

娘兒們ニヤルメン婦人ふじん（娘共むすめどもにあらず）

經水不調チンシユイフヂヤウ月經不調げつけいふてう

借給我錢チエケイウオチエン錢せんを私わたくしに貸かしてくれ

心中活動

心中に承諾する

七言八語

しやべる、非難する、批評する

肚内有火

痼癖ある、怒り易き

長了毛了

かびが生えた

這個東西

この品物

心口疼的利害

胸が痛んでひどい

老伯大人精神好

御尊父様は元氣がよい

7. 漢文と漢詩

漢文はむづかしいものと、日本では價値付けられてゐるところから色々の間違が起る。支那人が支那文の手紙を書くと、日本の標準で、この支那人は假名のは入らない漢文を書く、えらいもんだとひどく感服する日本の無學者がある。勿論それは大きな間違ひで、その支那文たるや、吾々のてにをは入りの日本文と元より同格で、漢文が高尙だ、日本文が下品だと、言ふものでない。従つてその支那人が日本に於ける漢學者先生などと同等の漢學の力があるのではない。また漢詩にしても然りで、作詩なんて、日本

の和歌や俳句と同一で、これを以て直ちに一かどの、學者と誤解し、おどかさねぬことである。また支那人は字を書くことが、逆も上手だが、あらでは文字を尊重すること、吾々の想像以上で、幼年から大變に習字を勉強し、皆書家同様に上手になる。平生字を書くにしても、吾々のやうに速くなく書させぬ、一字一畫忽せにせず、非常に念を入れて逆も遅筆である。従つて日本人の蚯蚓の匍つたやうな、下手な字は全く書かない。支那人の字のうまいのだけは、感心し敬意を表して差支へあるまい。

薑是老的辣

年の甲より龜の甲

8. 漢文と今の支那文

吾々日本人が知つてゐる漢文と、支那の現代文とは大分相違がある。現在使つてゐる書翰文の如きは、吾々には極めて難解だが、反對に吾々の知つてゐる漢文を書いて支那人に見せると、普通の支那人はその解釋に可なり苦しむ。それは吾々の支那の古文だからだ。それは、日本の女子供に、例へば平安朝風の文章を見せると同じことのやうである。

反之、日本人には今の支那文は分りにくい、書翰文の如きは、日本の候文と同じ様に専門の熟字があるから、それを覚えてしまへば大して

難(むづか)しいことはない。であるから、支那語(しなご)を學ぶと同時に、今の時文(いまじぶん)も學び、支那新聞(しなしんぶん)も易々(やすく)と讀め、支那人(しなじん)の手紙(てがみ)も分るといふ風(ふう)になるがいし。

支那文(しなぶん)を讀むのには、日本(にっぽん)に於て漢文(かんぶん)を讀むやうに返りく讀むといふ癖(くせ)をつけずに、支那音(しなおん)でずつと棒讀(ぼうよ)みに、讀み下して行くといふ癖(くせ)を付けるべきである。さうすれば最初(さいしょ)の間(ま)は頭に這入(はい)らなくとも、たびく繰返(くりか)してゐる間に、頭にボーツとながら這入(はい)つて、その意味(いみ)も解(わか)つて來る。さうした癖(くせ)を附(つ)けて行く間に次第(しだい)に棒讀(ぼうよ)みではつきりと直(す)ぐ分(わか)るやうになる。そこまで行くと、支那新聞(しなしんぶん)などを支那音(しなおん)で調子(てうし)を取つて棒讀(ぼうよ)みに讀むのも、支那(しな)に住(す)む一つの樂(たの)しみになる。

肉包子打狗(ロウパオツダイカイ) 泥棒に追銭(どろぼうにおひせん)

9. 支那文章は音調を尊ぶ

支那人は先天的に、音樂的な性質をタツプリ持つてゐるやうだ。それで文章を書く場合、先づ自分の思ふ所、目的とする所を書き綴つて行くが、一と通り書いてからこれを繰返して讀む。讀むには調子を附けて讀む。さうして調子の悪い句はドシ／＼直して行く、二度、三度歌でもうたふ様に調子を附けて讀んでは直す、直しては讀む。その間には最初の意味とは幾分違つた文句も出て来る。又全體として意味が多少違つて來ると云ふ様なこともある。然し一向構はず耳に響く調子の好い方にしてしまふ。

支那文は大體形容が非常にうまく書かれてをり、支那人はそれを得意としてゐるのであるが、これは大體その耳に來る感じからであつて、その形容詞に、一々深長な意味内容がある譯ではない。あの誇大な、過激な支那の文章を見て、日本人が徒らに悲憤慷慨したり、刺戟され動かされたりすることは馬鹿げた話だ。彼等の文章は大體日本人が感動する程、意味も精神も、魂も這入つてゐるのではない。

それ故、何時も思ふことであるが、支那人の文章を字句そのまま直譯することは、これは國際的にも、個人的にも大きな危険、誤解を伴ふことになる。經書その他古典の解釋などにしてもさうである。根掘り葉掘り、一字一句分析して、かうのあゝのと解釋を附し、或は異同を辨ずることは日

本人的解釋である場合が多い。

兔死狐悲

同類相憐む

風俗篇

10. 支那の虚禮と辭令

支那人は虚禮に過ぎ、辭令に巧みだと吾々は一概に思ふが、彼等の風習を知つて見ると必ずしもさうでない。支那ではその場合々に當嵌める挨拶語の使用法、順序がちやんと一定してゐる。彼等は習慣により、次から次と規則的に無意識的に、應酬語を並べるだけである。その應酬語が字にするると、美辭麗句に満ちてゐるから、漢字を尊重する日本人の癖として、あゝ大層な挨拶をして呉れる、支那人先生だと恐縮するのだが、甚だあて外づれで、彼等が使つたこの挨拶といふのが、發音あつて精神なし、彼等

は上の空で規則通り並べ立て、行くだけである。

初対面の時、問はるゝまゝに此方の姓名を言ふと、必ず久仰久仰と言ふ。これは、「久しい間御高名を仰いでおました」と言ふ意味である。ところがその次に来る語が「您貴姓」である。その意味は「お名前は何と申しますか」と言ふのである。久しく御高名を仰いでをつたと言ふ言葉の後から、次にお名前はと、全く矛盾してゐるが、こゝいらが支那人の應酬語、即ち挨拶語の面白いところで、何も言葉の意味に拘泥する必要はないのである。さうであるから最初の「久仰久仰」を「初めてお目に掛ります」と意譯して宜しからう。これなどは字の意味を頭に持つてゐると、日本人としては使ひ難い。「久仰久仰」と言つてから「您貴姓」と尋ねることは

全くの矛盾であるが、そこをお構ひなしに平氣で使ふやうでなければ、支那語が上手とは言へない。

その他實例が色々あるが、挨拶の上に出て来る言葉を一々文字から解釋して見ぬ方がよろしい。

支那人の虚禮といひ、辭令がうまいと言つてもこの段のことが多いのだから、大凡そ察すべきである。

當家纔知鹽米貴、養子方知父母恩
子を持つて知る親の恩

11. 役人と軍人は鼻つまみ

支那社會で鼻つまみは實に軍人と役人だ。

好人不當兵 愛錢的愛做官

好人は軍人にならず、愛錢家は役人になりたがる

といふ諺でも分るであらう。上役人と上部軍人は三年にして、必ず産を成すといはれてゐる。苛斂とか掠奪とか、これは支那の一般役人や軍人の爲めに、作られた言葉で、彼等のすることは正にこの言葉通りである。古來苛政は虎よりも猛しといはれた。古、ある支那婦人はその父、次いで

その夫、更にその子までが虎に食はれても、その土地を去り兼ねた。理由を問うたらこの土地には苛政がないからと答へたといふ。それは古も今も大して變りはない。支那全土苛政のない所はないのである。これ程支那では役人と軍人は不正を働く。

それらに引き代へ農民と商人なら先づ信用が出来る。支那内地に永らく住み、彼等農商人と深く接する日本人なら、それがよく分る筈である。これ等農商の善良な支那人と堅く手を握り、深交を結んで行つたなら、どんなにか日支親善の目的を達し、東洋平和のため益することであらう。農民や商人は正直で約束を堅く守る。彼等に對しては餘り疑はなくとも大丈夫である。唯、古來個人主義が發達してゐるから、日本流儀で公私混同、情實

に流れてはいけな。支那では「商賣は商賣、義理は義理」といつた風で、
商賣と私交のけぢめは、はつきりして居るから、日本人流に「あれ程親し
いのに」とか、「彼奴恩を知らぬ」とかいふことは、支那では不都合な考へ
である。

ホウホフチョウフアンレイチワン
畫虎不成 反類犬

虎を畫いて犬に似る

12. 彼等の悪習を氣にするな

賄賂、賭博、阿片、蓄妾、秘密、不潔、吐痰、國家觀念薄弱、個人主義、
金錢萬能等、此等は悉く支那人の特性で、日本人が極端に嫌厭する事柄
のみである。日本人には支那人を捉へて、よく此等の點を擧げて得々と論
議し面罵する者が甚だ多い。否、日本人の悉くが左様である。これも誠
に餘計な節介で、彼は彼、我は我、なにも平生支那人個人に向つて惡口
を叩く必要は毛頭ない。

どうも真正直で議論好きで日本人は、特に支那人の嫌がる事のみを選ん

で口にする風があつていけない。何事も相手を尊重することが慈悲の第一等である。支那人を立て、支那人自身の支那を建設するやうに仕向けて行けば、自ら招かずして日支親善は出来る。その悪癖や悪習を善導改良することは、その上でのことである。

得了屋子想炕

慾に限りはない

13. 支那人の不潔

郷に入つては郷に従へ。支那人得意の手鼻どころか、雑巾と拭巾を危くゴツチャに使つたり、支那人のする事、一から十まで潔癖屋の吾々から見れば、とても耐らぬほど汚ない。然しこれは支那人の習性でどうにもならない。他人の國の風俗習慣をこちらで無暗に氣に病んで見ても始まらぬ。かう言つては少し皮肉になるが、吾々こそ寧ろ海外發展の修業と思つて、もう少し日本人は、外國では日本人離れしてはどうだ。支那人のすることの不潔さを一々罵倒し非難攻撃するなら、あの美味真求の支那料理なんか

食べられた義理ではあるまい。

また、自家で使つてゐる下僕なんかには、清潔に仕事をすることを教へようとするなら、噛んでふくめるやうに丁寧（ていねい）に氣長く教へてやらぬと、この不潔な習慣性を直すことは容易でなく、一朝一夕にして彼等の先天的といふべきこの習性を改めることは出来るものでない。こゝに不思議な事實は、歐米人が使つてゐる下僕に限つて見違へるやうに改良されて、きれいな支那人となつて来る。それなのに日本人の使つてゐるのは、何年立つても汚ないこと皆依然たる支那人であることである。これは日本人が支那人指導の下手さ加減を暴露した一つの例であつて、他の章に説いた歐米人の支那人取扱法と共に學ぶべき好個の例證である。

ツエイツォーコワンメン
賊走了關門

喧嘩過ぎての棒千切れ

14. 何でも金に換へて聴く

初対面でも人の衣物をつまんで之は幾らで買ったと聴く。或は人の月給の額を尋ねる。店の商賣高を質問する。日本人なら禮儀上殆どしない質問を支那人は平氣でやる。又支那人同士一々眞面目にこれに答へてゐるのである。これも習慣だからどうも仕方がない。失敬千萬な話だと腹を立て、みしも始まらない。日本の所謂武士は食はねど高楊子式の、金錢輕視の思想はこんな時あてはまらない。英國あたりの「時は金なり」といふのと同じで、何でも彼でも金で見積ることは、吾々日本人としては最も厭はしい

ことだが、然し一步退いて考へ直して見ると、世界の總ての動きは經濟に源泉を置いてゐることを知つた時、吾々日本人は支那人や英國人のやうに何から何まで金に換算せずとも、もつとく金といふものを重んじ、日本一流の道義觀念と共に、經濟觀念を養成すべきだと思ふ。それには支那人のは少し刺戟が強すぎるが、他山の石として吾々を磨くいい教材である。

齊行罷市

同盟休業

15. 支那人の面子

面子は實利的支那人に、少なくとも自制と反省とを與へるのに役立つものであることは、見遁し得ない事實である。個人主義、利己主義の彼等が、意外に上品な行動を取ることのあるのは、この民族の上下を通じて、深くその心の奥を支配する面子根性、そのものゝ効果であつて、この習俗は、時に彼等を精神的に救済し得る場合があるのである。支那人は色々な場合に色々な意味に、面子といふ熟語を盛に、それこそ頻々と使用する。例へば、かうして貰へば自分の顔がよい（面子大）、體裁

がよい、キレイだ（好體面）、私の顔に免じて（做我的面子）、どの面さげて（有甚麼面子）など、有ゆる場合がある。だからして、拜金宗を輕視せぬと同時に、支那人と交際する場合、彼等の面子心を、公私共に利用することを忘れてはならぬ。彼等は交渉が困難に逢著するとか、事件が難局に向つた時などは、面子を振り廻すが、こんな時に「あなたの顔を立て、」とか「私の顔に免じて」などと、彼等の退路となるべき方法を與へ、面子を潰さないで、善い案を持出す時は、容易に且つ婉曲に事件を解決し得るものである。

警察沙汰や裁判沙汰の損害を知る彼等は、自衛自利の考へから、同業者や長老の仲裁に甘んずることが多く、その顔を立てるといふ意味合から、

面子は屢々法律よりも有効に利用されることがある。

その他外交談判でも、政治問題でも、その内容の如何に不拘、彼等當局者の面子を尊重し、輿論に對する態度と實益とに對する名目とに退路をあけて置くときは、問題を圓滿な解決に導き得るものである。日本人は支那人をあやつることに於て、まだこの邊の深い研究が足りないやうに思ふ。

會買的不如會賣的

買上手は賣上手には叶はない

16. 買物の頭をはねる

家庭に使つてゐる召使とか、ボーイなどに買物を命ずると、支那人は必ずその五分なり、一割なりの頭をはねる。多年使つてゐる者でもさうだ。

日本人はこれを支那人の悪い癖として、非常にやかましく言つたり、咎めたりするが、これは支那人の殆ど先天的な習性だ。なか／＼改めることは出来ないらしい。徐々に教育してゆくより仕方があるまい。だから西洋人などは、出来るだけその頭をはねられないやうな方法を探つてゐる。

例へば西洋人同志購買組合のやうなものを拵へて、物資の購入などをす

る場合、その組合で一纏めに買つて、それを各自が分配するやうにし、一つには成るべく買物の値段を安くし、二つには支那人の召使に頭をはねられないやうにしてゐる。日本人もさう云ふやうな方法を探るのもいいが、或る程度支那人が頭をはねるのは仕方がないと恕してやるがいい。

借花供佛

人の禪で相撲を取る

17. 支那人の泥棒心

路に物が落ちてゐれば、支那人はこれを拾ふのを當然としてゐる。だから、何か物が置かれてあつて、所有者が其處にゐないと、支那人は平気でそれを持つて歸ると云ふやうなことが多い。斯様な行爲を支那人は泥棒とは考へてゐない。所有者のないものは、取つてもいいものだと云ふ觀念を持つてゐるらしい。だからさう云ふ場合に發見されて咎められると、あゝ、さうですかと言つて返す。返せばそれでいいので泥棒でも何でも無い、勿論悪い事をしたとは考へてゐない。

路に遺ちたるを拾はずといふ聖人の訓は、支那では行はれない理想教訓である。吾々の頭では遺ちたるを拾はぬ位は當然の話であるが、支那では左様になつてゐないのだから、支那人のかかる誤つた行爲に對して非常に追及し、泥棒呼ばへりして責めたりせず、アツサリと恕してやる方がよろし。

紙上談兵

壘の上の水泳（机上の空論）

18. 今でも毒殺が流行する

古來支那には毒殺といふ原始的な殺人方法があり、今日尙それが行はれ、政界の要人達がうつかりこの手にかゝつて、敢へない最期を遂げることがある。巷間傳ふる所によると、張作霖は自分の食膳に向ふ時、幾人も料理人に吟味させてからでないと言つて、箸をとらなかつたとか、蔣介石なども宋美齡手づからの料理以外は、餘程神經過敏であると聞いてゐる。劍よりも毒は怖いといふのであらう。

大體秘密の國や、暗黒政治には毒殺が付きもので、例へばソ聯の獨裁者

スターリンなども屢々その凶に逢つて、きはどい所でそれを免れてゐると
海外通信は報じてゐる。支那もまた争亂を事としてゐる國柄だから、御多
聞に洩れずこの習弊は又やむを得ないであらう。

そこで、古來、支那料理には銀の箸が用ひられる。これは若しその食べ
物の中に毒物があると忽ち銀の色が變るので、この食べ物には決して毒が
ないといふことを示すために、主人も客も長い箸を使い、且つ、中央に大
きな容器に入れた御馳走を銘々の箸で、小皿に取り分けて食べる習慣にな
つてゐる。即ち一卓十人位の者が集つて安心して箸をつけ、この料理は
決して懸念するには及ばないといふ食事の方法になつてゐる。然し時とし
てはこの間に毒殺行爲が巧みに仕組まれるのだから油斷がならぬ。そこで

尙面白いことは、酒を飲んだら必ず所謂乾杯して、盃の中を見せ合ふ。か
うして絶えず毒殺の警戒をするのである。

借勢欺侮人

勢力を借りて人をいぢめる

19. 蓄妾は支那男子の重荷

日本でもさうであるが、殊に支那人は多年の習俗として血統の斷絶を嫌ふ。所謂蓄妾の習慣は、この斷絶を防ぐために培はれた根強い社會的地盤をもつもので、日本人などが單に享樂の手段として、氣まぐれに妾遊びをする氣分とは、餘程の距離があることを注意すべきである。

蓄妾といつても、やはり經濟的に豊かな階級に限られ、その數の多きを以つて名譽とする風があり、金持になると、三人も、五人も、七人もの妾を蓄へ、しかも此等が皆同一の家に起居し、正妻をも加へた一大家族を形

成してゐる。その妾にはそれ〴〵召使、子供、更に食客までもゐるのであるから、全體の人數は三十人、五十人を數へ、甚しきは數百人に達することも珍らしくない事實がある。

東西人情の常として、これ等の妻や妾が互ひに鎗を削り、裏面の暗闘に日も尙足りない有様になるのは當然の成行といへよう。支那人が陰險であるとか、残忍であるとか、陰謀性に富み、毒殺とか、詐謀奸惡等各種不道徳の多いのも、その起りは、社會構成たる家族の組織がこんな具合だからではなからうか。

一夫多妻で、一家の中に多くの妻妾同居すれば、それ〴〵の子供達は母を異にし、眞の兄弟愛が薄弱であるから互に排斥し合ふ。一方、妻妾等は

自衛のため、召使まで抱き込んで、派を作り鎬を削つて争ふ有様である。
また暗黒面としては、妾と他の妾の子供とが姦通したり、家族の一人と
妾とが通ずるとかいふやうな、畜生道をさらけ出す。かくて互に排斥し合
ふ結果は、中傷離間讒訴を事とし、終には殺人沙汰にまで及ぶ。これら家
庭紛雜のため、支那の男子は生涯苦しめられ抜いてゐる奇現象である。

你去你的

君は勝手にせよ

20. 匪賊の種類

古來匪賊は支那の名物である。兵匪、共匪、土匪、政匪、學匪、官匪等々、これ等は支那全土を横行して、劫掠殺戮の限りを盡くし、その暴戾殆ど鬼畜に類する。彼等が過ぐる沿道に於て男子は拉致されて牛馬に代へられ、女子は姦汚凌辱に任せられても警察官は彼等を却て恐れ憚つて、これを如何ともする術を知らない状態に置かれてある。従つて大小の村落、都會を擧げて悉く一炬に付して灰燼を餘し、屍體は路傍に暴露し、哀號の聲は巷に慘として聽くに忍びない。支那の民謠に匪如梳、兵如篦、團練如

剃刀、といふのががあるが、これは土匪の遣り口が恰も櫛を以て、梳つたやうな後を受けて、今度は軍隊が篋で撫で廻し、その後から團練が剃刀で剃り落すといふ暴逆のさまを、巧みに形容した語である。

かくの如く匪賊に痛められ、荒される支那社會は、運命的に一の悲劇を背負つてゐるもので、これが絶え間のない戦禍と共に、支那民族を陰慘と、宿命と、忍従の性格に作り上げて行つたものであらう。

さて、兵匪といふのは軍隊のことであるが、元來支那の軍隊は土匪、浮浪人、乞食などの集りである。漢の武帝の頃は死刑囚、亡命者、無頼の徒より、有罪の官吏に至るまで掻き集めて兵にしたといふ。支那人に「好鐵不_レ打_レ釘、好人不_レ當_レ兵」といふ句があるが、兵匪はつまり破落戸などの

寄り集りを言つたものである。

土匪は即ち馬賊のことで、浮浪人は兵隊になるか、さもなければ土匪になるが、軍隊でも金が貰へなくなると、兵變を起したり、逃亡して土匪に變つてしまふ。都合のよい時は兵になり、都合の悪い時は土匪で稼ぐ。張作霖や張宗昌が馬賊の親方であり、明朝を拵らへた朱元章も元をたゞせば皆土匪である。王侯將相豈種あらんやで、土龍も風雲に乗ずれば、天下を支配し得るのが支那である。

支那に讀書階級と云ふのががある。これらの最高目標は、天晴官吏になつて金儲けをやらうといふのであるが、官吏になるには經書を読み、學を修める。然し支那のやうに情實因縁で固まつてゐる所では、容易に官吏には

なれない。官吏にありつくことが出来ない者は、滔々相率ゐて所謂學匪に顛落するのである。彼等の武器は言論であり、筆である。國權回收を叫んで、日貨排斥や愛國運動に狂奔する者もあり、時の政府の稅政を暴いて國を奪はんと謀る者もある。皆これ學匪の仕事である。古來學匪は歴世の統治者を困らせたもので、流石の秦の始皇帝もこれを坑にして諸士横議を禁じたが、蔣介石なども共産黨と組んで、事を起さんとする此等學匪の剿殺に、多年頭を悩まして來だ。

その他政匪、官匪、共匪等、名稱の異なる匪賊が支那を横行してゐるが、これなども、それが居る地位によつて名付けられるもので、何れも匪たるに於て選ぶところが無い。

禍不單行

弱り目に祟り目

21. 支那を比喩して散砂と言ふ

支那人には國家思想といふものが薄弱である。従つて國境觀念も稀薄だ。國內の政治も全く統一されたことはない。彼等は自らを中華民國などと言つて威張つてゐるけれど、その實統治の内容は亂脈を極めてゐる。法律制度は整はず、内治は擧らず、警察でも刑務所でも、官吏の服務でも、あらゆる方面に於て組織的國家の實質を備へたものは殆どない。

孫文が出て三民主義、五憲憲法を創作したけれど、官吏の擡取上の新看板に利用された外、何等見るべきものがなく、支那は依然として近代的國

家組織の要件を具備せず、非法治國である。

かく、支那が非法治國として、統一國家の形態を備へ得ないのを見て、或外人がこれを散砂に例へたのであつた。即ち支那人は散砂の如き民族であるといふのであつて、水かセメントか、強力な媒介物があれば團結し得るが、一度この強力な仲介物を取去れば、砂は何處までも砂である。支那人は個人として良好な勤勉家であることは、個々の砂が堅實そのものであつて、永久に不滅であるのと同じであるが、他力なくしては國家組織などの出来る國民ではない。要するに、支那は國家ではなく社會であつて、言はゞ民衆の集團、村々の連絡のない集りに過ぎないといふのである。

走^ツ了^ラ的^テ魚^イ是^シ大^シ的^ク

逃^にげ^た魚^は大^きい^もの^だ

22. 支那の黨會

匪^ひ賊^{ぞく}に惱^なむ支^し那^なにはも一^{ひと}つ惱^なみの種^{たね}がある。三^{さん}百^{ひゃく}年^{ねん}來^{らい}發^は達^{たつ}し來^{きた}つた黨^{たい}會^{かい}即^{すなは}ち秘^ひ密^{みつ}結^{けつ}社^{しゃ}がそれである。さて、この黨^{たい}會^{かい}は匪^ひ賊^{ぞく}の搖^え籃^{らん}であり、苗^{めう}圃^ぼともなるので、支^し那^な社^{しゃ}會^{かい}の組^そ織^{しき}の裡^{うち}に、根^ね深^{ふか}く喰^くひこみ、支^し那^な社^{しゃ}會^{かい}構^{こう}造^{ぞう}の一^{いっ}要^{えう}素^そとさへなつてゐる。

傳^{でん}來^{らい}支^し那^なの國^{くに}柄^{がら}が黨^{たい}會^{かい}の發^は生^{せい}と發^は達^{たつ}に、都^つ合^{がふ}よく條^{てう}件^{けん}付^けられ、運^{うん}命^{めい}付^けけられて來^きてゐる結^{けつ}果^{くわ}、支^し那^な民^{みん}衆^{しゆ}もこれに對^{たい}して多^{おほ}く不^ふ思^し議^ぎとせず、或^{ある}意^い味^みでは渴^{かつ}仰^{やう}の的^{まと}になつてゐる。たゞ無^む辜^この民^{たみ}が最^もも恐^{おそ}怖^ふを感^{かん}じ、脅^{けふ}威^ゐに戰^そく

のは、黨會の無賴の徒で、甚だしいのになると、僅か五元の報酬で暗殺を請負ふといふ悪徒がある。これを「流氓」又は「棍子」といふ。黨會の構成は凡ゆる階級の人物を網羅し包含してゐるが、その多くは日本の博徒若くは破落戸の類ひに外ならぬ。であるから、民衆は何時何處で此等の襲來を受けるか知れない不安に曝されてゐる。

實に、支那は古往今來匪賊の國であると共に、黨會の國で、この兩者は、唇齒輔車の關係にあつて支那を毒するバチルスである。

今更長沙に於ける共匪の慘害を驚くにもあたらぬ。また國民政府が太平天國の洪秀全等と呼ぶのに、長髮賊若くは長髮匪を以てすることを嚴禁したからとて、民衆がすでに匪賊の裏である黨會に左右せられてゐる以上、

未來永劫、匪賊の絶えやうがなく、随つてこの黨會の潛勢力を無視し、民衆からこの潜在意識を除去し得ず、又、除去しては同時に支那國家も、社會もなく、軍事も外交も、革命も悉く支那から抹消することにならう。

一人傳虚、百人傳實

一人虚を傳へ百人實を傳ふ

23. 支那人は謠言を信用する

支那は謠言の盛んな國だが、不可解なことには支那人は事實の話よりも、謠言、訛言の方を歓迎するといふ傾向がある。これらは古來神仙の説や虚誕極りない方術が流行した所以でもあらう。又芝居氣タップリな、白髮三千丈式の、大袈裟な形容が歓迎された所以でもあらう。即ち事實の話よりも、真しやかに傳へられる謠言の方はどうしても話が賑やかで大きいし、所謂ニユースを好む人間としては、これを歓迎するのは無理もなからうが、龐大な土地に住んで交通は不便であり、虚誕な傳説に就ては、あらゆる想

像をも逞しうせしめる資料の多い支那人としては、さまざまな奇々怪々な話が、面白さに釣られて聞く中に、習性となり、日常のことに就いてすらも、所謂謠言でもなければ、興味を引かなくなつたのだらう。それ故吾々が支那人にそれは虚だ、訛言だ、實はかうだと説いて見ても、支那人はその事實の話を、受け付けられない場合がよくある。科學は發達せず、逆に神秘と傳説だけの中に生活して來た國民だからであらう。今では全く性格的だ。

臨陣磨鎗

泥棒捕へて繩をよる

24. 自治制の發達と會

支那は多年の積弊に因り、役人には信用なく、人民は役人の力を頼つては一日もその生命財産を安固にすることが出来ない。そこで、四隣合壁相扶けて自衛を計るやうになつた。これが今日、支那の地方自治制發達を促した主なる原因である。公議會、商務總會、會館など皆それである。

されば地方官吏もその土地の○○會の協賛を経なければ、實際の政治が出来ない。だから、何處へ行つても先づ會長と十分連絡を取り、仕事の便利を得るのが肝要だ。なに、しても、會長といへば、その土地一番の有力

者だから、相當敬意を表して訪問せねばならぬ。

人貧志短、馬瘦毛長
貧すりや鈍する

25. 支那人の義捐寄附

國家の爲め、政府の爲めにといへば、納税の義務すら餘り好まぬ。が社會の爲め、郷黨のため、積善のため、慣習のためといふ場合は、大いに奮發して出費を厭はぬ風がある。彼の日本の大震災に際して、支那の各地各階級の人々から、多大の贖金のあつた如きその一端を窺ふことが出来る。拜金宗の御本尊である彼等が、外國に對してまでも救恤、義捐に乘出す動機は何であるかは研究問題であらうが、兎も角國境を越えて、手を差延べて惜しまぬ美風のあることだけは、輕々に看過出来ない問題であらう。

また都鄙を通じて、年中行事の場合の如き、その巷里の祭祀の催し毎に、里民の投げ出す費用の莫大なことは、吾々の想像以上である。町内のため付合とあらば、大いに面子を立てるのが彼等の常である。

你有、我有、就是朋友

互ひに金がある奴だけも付合が出来る

26. 支那人の貧乏力

支那では、なぜ貧乏人が暮しよいか、その結論としては、所謂面子さへ捨て、掛れば、食ふには困らないといふことになる。日本でも昔は稍それと似た気分であつた時代もあるが、現代では、體面を捨てた日には尙更食へなくなるばかりだ。貧乏人が貧乏なるが故に便利を得るといふ點は、日本にはない。

支那では或程度の貧乏になれば、即ちその生活程度を、そこまで引下げさへすれば、暮しは非常に樂になる。つまり貧乏人になれば、なり甲斐が

あるといふものだ。それはなぜかといふに、支那では日用品賣買の單位が低く、米は一合を標準にして、鹽や砂糖は一錢でも二錢でも賣る。一錢二錢の場合は目方を量らず目分量で紙にのせてくれる。糞を一本二本、甚だしきは一本の糞を半本に切つても賣つてくれる。燐寸十本幾らと賣る。肉など三切れ五切れでも賣る。誠に調法至極だ。これは結局、貧乏人には便利を計つてやるといふ支那の傳統的習慣が、一の社會政策にまで立派になつて、それがやがて鞏固な生活法則になり切つてゐるからであらう。

支那は國內動亂が絶えず、多く無秩序の状態にある。土匪に荒され、饑饉に襲はれ、兵燹のため焼き拂はれるやうなことも常である。しかも歴代外寇に悩んでゐる。さういふ慘憺たる状態を繰返してゐるから、民族生活

が意外に鞏固で根深い忍従さを示してゐるのは、他の理由もあるが、右の下層民自然保護の社會組織が、便利に出來上つてゐる結果だとも言へよう。

捨不得孩子套不着狼

子供を惜しむやうでは狼はつかまへられぬ
本を惜んでは大利は得られぬ

27. 支那婦人はよく憤死する

支那婦人は存外によく自殺する。この自殺は多くの場合憤死である。これを支那語で氣死と言ふ。支那の女は家庭に於て嫡天下の外形があり、表面の華やかさとはお話にならぬ程奴隸的な位置にあつて、内心深刻な忍従生活をしてゐる。

北京の曾ての新聞によると、この大都會の自殺者の多數が、女で占められてゐることを知るのであるが、實際支那の女性は、吾々から見ると、病的な程昂奮し易く、猛烈なヒステリーで且つ自殺し易い。支那婦人の病的

反抗性を最もよく現はしてゐるものは、廣東の處女の間に行はるる「拒婚同盟」であらう。「支那の村落生活」といふ書物の中に、この奇習を紹介し、同盟員の一人が兩親の結婚命令に背きかねて、自殺したところから、他の同盟員が擧つてこれに殉じ、憤死したといふ、驚くべき事實を傳へてゐる。

その他、支那女性の間には不落家なる習慣があり、彼等は家にあつて、種々の内職にはげみ、獨立の生計を營んで結婚を好まない。彼等の力では父母主婚の慣例を破ることも出来なければ、家族倫理の傳統的勢力に抵抗することも出来ない。婚姻を欲しない娘達が結束して、結婚を生涯避けるのである。これは即ち家族專制に對する反動であるが、その反動も力

足らずして、一個の悲憤的性情に培はれて行き、動もすれば憤死を選ぶといふことになるのであらう。

肥不着他、瘦不到我

彼にも大した利益なく、我にも大した損はない

28. お辭儀せぬ支那婦人

「男女七歳にして席を同じうせず」と云ふ、こんな處から來たのもあらうか、婦人は總て起つてゐて男子と同室にして坐らない。そして初對面の人に向つては容易に挨拶をしない。顔を付き合はしてもニコリともせず、顔を背ける風がある。支那人を訪問して、その夫と談話してゐる時など、妻君が向うに現はれても殆ど知らぬ顔をして姿を消す。日本人として非常に不快に感ずるが、これは向うとしては習慣であつて、支那人同士は平氣な顔をしてゐる。これは深閨にある婦人が、夫以外の男子と馴れくしく

語ることを慎むといふ婦道が出來たのであらう。

これが極端になつて、例へば汽車の中などで母が子供を抱いてゐる。その子供に果物や菓菓子などをやつても、その母はお辭儀もせず挨拶もせず、知らぬ顔の半兵衛をさめ込んでゐるが、そのかはり隣に坐つてゐる夫が代理づらして挨拶する。これなどは吾々として随分癢に障るが、これも支那人の風習だから氣にしないがよろしい。

一 勞 永 逸

僅かな勞で大變に身のためになる

29. 支那婦人に御用心

支那は外見觀念的に、男尊女卑であるが、家庭では、實際にひどい女尊男卑である。大體男は女を腫れ物にでも障るやうに敬遠して、その實全く女の尻に敷かれてゐるのである。妻の方が夫をとらへて、口やかましく罵ることがあつても、夫はじつと忍んで相手にならない。腕力沙汰に及ぶことあつても、滅多に男から女に手を出さぬ。男は強いから男の面子で我慢してやるといふ理窟らしい。それ程ならばなぜ蓄妾の習慣があるか。それがあるが爲めに、男子は平素妻の前に、面從腹背してゐるのだとも謂へる。

吾々もこの風俗をのみ込んで、支那婦人の前で餘り露骨なまねをしないことと、女の方から話をしかけられもしないのに、こつちから進んで女に向つて話をしかけたり馴れ馴れしくしないことだ。殊に注意すべき事は、支那人の住宅に踏み込んで、奥の間にある婦人の室など絶対に覗き込まぬことだ。

ところが婦人自體はどんなかと言ふに、あの禮儀三百威儀三千と昔から言はれてゐる支那で、前項にも書いた通り、今日の支那婦人が來訪の客人に向つてお辭儀一つせず、挨拶を丸つ切りせぬことなどは、全く意外千萬の事實で、誠に支那は矛盾だらけで、普通の常識では理解の付かぬ事ばかりである。だから日本婦人のいんぎん親切な態度に接した支那人は、非常

に嬉しがつて日本婦人の貞淑さを絶讃するのである。

當局者迷、傍觀者清

岡目八目

30. 日本婦人は支那人に御用心

世界に誇る日本婦人は、極めて懇慫で、親切で、丁寧で、外国人であらうと誰彼なしに、相手に向ひ極めて開放的であつて、殆ど弱い婦人として警戒するといふことがない。さうして日本婦人が支那に行つて、聞嚙りの支那語を使つて、直ぐに支那人に馴れくしく言葉を掛けたり、親切なことをすると、支那では、かりそめにも未だ付合の浅い女からさう云ふことをされる習慣がないから、彼等は非常に喜ぶ。

元來、女好きの彼等であるから、日本婦人の優しさに付け込んで、段々

と馴れ／＼しくして来て、終には間違を起す場合が満洲などでは實例が澤山ある。これは日本婦人として特に注意すべき點で、支那婦人のやうに不愛想でもよくないが、日本人に對するやうな態度氣持を支那人に採ることは慎むがよい。元來支那では、夫以外の他の男子と馴れ／＼しく語るといふことはないから、日本婦人もそれを少しは真似たがよろしからう。

カオナヘオツ
狗拿耗子

よけい
こと
餘計な事をする

31. 心中(情死)せぬ支那婦人

社會學者の説によると、心中といふ異性相死の現象は、世界共通のこと
で、日本のみならず佛蘭西でも、英吉利でも、獨逸でも、亞米利加でも、
少くとも文明國でそれのない國は殆どないとのことであるが、不思議にも
支那では心中沙汰を殆ど聞かない。支那の小説や映畫に戀や駈落の場面は
あるが、心中するといふ情景は一向に見出されないのでもわかる。
支那婦人の間には、くやしませぎれによく憤死が行はれるといふ事實は既
に述べた通りだが、これは單獨死に過ぎないもので、異性に對する甘美な

ロマンチックな憧憬の合致から、同時に死んで行く心理とは全く異つてゐる。然らば支那にはなぜ心中はないのであらうか。思ふにこの問題は支那民族の性格と社會制度と、生活環境といつたやうなものを解剖してかゝらないと、正確な答へは出來ないであらう。

それはともかくとして、支那人男女の生活事情が、何時如何なる場合でも、實利觀念で終始され、心中に不可缺な人間自然の美はしい純粹心理になり切れない性格を、彼等が相互に持合はしてゐるからであらう。従つて男女の關係は至極あつさりしたもので、一切をぬきにした情と情との火花を散らす燃焼はそこにはない。

支那の夫婦關係を見ても判る通り、形式はどうでもその内部に立入つて

見ると、極端な女尊男卑で、男は男、女は女で互ひに尊敬し合ひ、睦み合ひ夫婦一體、一蓮托生といふやうなことはなく、生活、意識、態度が別々に離れてゐる。かう云つた心理の分裂が根柢となつて社會が成立し、夫婦關係が營まれてゐる以上、純真な心身合一から發足する心中がないのは、寧ろ當然とも言へよう。

若い男女とても同じで、忘我的な犠牲心理に陥るやうなことはなく、常に打算的で、戀も理で行くところには、死を讚美し二世も三世も契るといふ夢は存し得ない。

日本心中の、金より大事な忠兵衛さん式の一切の名利を超越して、全き情愛故に喜び勇んで死を選ぶ人情至純の行動は、凡そ支那人には縁のない

ことで、こんな徹底した心理は彼等にとつては不可解であり、また愚の骨頂であらう。心中は世にも稀な大きな損失だと言つた人がある。まさに大きな損失に相違ない。損を嫌がる支那に心中のないのは、なる程と納得出来るのである。

死店活人開

倒産した店でも腕のある人がやればもり返へす

32. 喜怒哀楽顔に出さず

日本人は、歐米人と同じやうに喜怒哀楽を容赦なく、顔に、言葉に出す國民であるが、支那人は、容易に態度にも、顔色にも現はさない。どちらかと云ふと、支那人は常に柔和な顔をして悠然と構へてゐる。であるから、支那人の心持を外観や、顔色から見破ると云ふことは一寸難かしい。

彼等の顔は極めて單純に見えるが、精神的にはとても複雑だ。故に支那人と附合ひする場合、日本人の癖である餘りにも露骨な表情は、成るべく出さぬやうにした方がよからう。

或人はいふであらう。「感情を面に現すのは歐米人で、日本人は何時でも苦蟲をかみつぶしたやうな顔をしてゐるかと思ふと、お悔みに行つた時でもニコ／＼して居るぢやないか、これこそ喜怒哀樂を顔に現はさぬといふべきで、それが日本人の缺點なのだ、人はもつと天真爛漫であるべきだ。」と。如何にもそれもさうだ。然しこれは日本人の表情に就てであり、更に、感情を面に現すのがいゝか悪いかは別の問題として、たゞ支那人はいつでも春風駘蕩としてゐるのに、日本人は、少くとも支那人に對して實は露骨に内心の感情を面に現す。これでは支那人にいつでも内兜を見すかされるし、反對に、こちらは支那人の顔を見ただけではなか／＼その眞情は掴めないといふものだ。

笨鳥兒先飛
馬鹿鳥は先に飛ぶ

33. 支那では日本より分業的

支那の分業は、西洋流の劃然たる分業制度ではないが、遠い昔から自然的に分業になつてゐる。早い例が自家に使つてゐるコックに向つて、受持以外の室の掃除をしる、靴を研げと命じて御覽、決してコックはオイソレと受付けない。受持のボーイが歸つたら左様に申付けますと答へて、恬然たるものである。

この點、西洋人はよく心得たもので、無理な命令を彼等にせぬが、日本人となると、何だ、今なにも用がなく遊んでゐるぢやないか、生意氣千萬

だ、何んでも遣れ遣れと、叱るやら怒鳴るやらであるが、過ちも甚だしい。元來日本人の女中なんて、何から何まで主命ただ奉じて萬能的に忠實を盡くすが、世界の何處を探しても恐らくこんな調法な家僕はあるまい。

進退兩難

進退谷まる

34. 支那人に酔漢なし

支那人のすることに見習ひたい事も色々あるであらうが、彼等が酒をいくら飲んでも、酒の爲めに狂はない點だけは敬服せざるを得ない。支那に何年住んでも、泥酔漢を道路に見受けぬのは嘘のやうな事實だ。この善風美俗は郷黨の自然制裁がきついいし、社會信用を重んずるからであらう。日本人が無暗に酔つ拂つて大言壯語し、強がりをつけて支那人を劣等國民だと罵倒するのは、一番彼等が嫌惡する點であるから注意すべきだ。

日本人の酔つ拂ふのは、所謂一見舊知の如く、此方を相手の腹中に置き、

氣をゆるすからであり、日本人の淡泊性があつていゝ所もある。これに反し、支那人は悪く言へば酔ひ切れないといふ理性が、つたせゐもあらう。然し、酒を飲んでも酔つ拂はない方が、酔つ拂らふよりはいい。殊に支那に於て、支那人と交はつては酔漢となることは禁物だ。日本人たるもの注意すべきことである。孔子曰く「酒無量、亂に及ばず」と。

握着耳朵偷鈴鐺

頭かくして尻かくさず

35. すべては賭博の生活

日本だと公秩良俗を破壊するといふので警察の眼が鋭く、危険を承知でないとなかくこれをやる気になれない。ところが支那では、一の娯樂として觀念せられ、法律の制裁を受けることもないので、上は大總統から下は乞食の端くれに至るまで公々然と賭博に耽つてゐる。

支那の何處でも、街路や一寸した空地などで、安直な賭博開帳の場面をよく見受けるが、至極呑氣な、しかも平々凡々たる情景で、到底日本では見られない圖である。

モナコと共に上海が、賭博の都として世界的であることは何人も知つてゐよう。上海ばかりでなく支那各地の都會には賭博場のない所はない。

昭和九年二月蔣介石の發案にかゝる所謂新生活運動が起つて以來、生活萬般の改造が企圖せられ、舊來の陋習を破つて新たな國民生活の規準が定められることになつて、一切の遊蕩氣分に緊りをつけることになつた。長髮賊の主魁洪秀全も賭博が支那民族衰亡の原因であることを知り、銳意これが撲滅を試みた。然し支那人生活では賭博といふものが、彼等の實生活そのもの、一面を形作り、調和して自由自然の習俗である限り、恐らくは、どんな對策取締法も結局徒爾に終るのではなからうか。

何といつても悠久四千年の歴史をもつた民族性から見て、一朝一夕に諸

事の改革、別ても生活とまでなり切つた賭博の撲滅を望むことは難中の難事で、かくの如き民族の私生活にまで立入つて、これを建て直さうとする事が以何に困難であるかは想像に餘る。元來、支那人生活に對して人爲的規律とか制裁とかは凡そ愚の骨頂で、何事も習慣、自然、放置でやつて行く彼等には、政府の政策一切は多く意味をなさない。茲に支那統一の政治的困難があるのであつて、日本の北支經營に於てもこの支那人操縦のコツを徹底的に修得して、過ちのない導き方をして貰ひたいものである。

得人一牛、還人一馬

贈物を受けては返禮しなくてはならぬ

36. 支那官吏の公生活と私生活

何人にも明暗の兩方面はある。然し支那官吏ほど公生活と私生活との間に表裏の相異がひどいものはない。各章で屢々語る通り、彼等は異常に面子を尊重する。よし、それが日本人の體面を重んずる眞精神があるのでなく、單に形式に止まり見榮を張るのだとはいへ、外部に對する面子を大事にすればする程、それだけ内面の生活との間に距離がなければならぬ。この表裏生活の眞相を暴露した出版本が、支那には少くない。『官場現形記』、『儒林外史』の如き小説、これは官僚及び儒者の内幕を如實に素ッ破

抜いたものだ。日本なら早速發賣禁止物である。その他『百弊叢書』、『中國黑幕大全』など社會各方面の醜惡面を率直に摘發してゐるから、支那に住んだらこれらの怪本奇書を購讀するのも、よい時間潰しであるし、支那の暗黒面を知る資料である。

官場なる語は民間では一の誹謗語となつてゐる。私曲貪婪、權謀術數、惡辣陰險、欺罔陷穽、官權濫用、賄賂公行、請托不正、阿媚陋劣、公金橫領、蓄妾淫樂、家庭紊亂、これらの熟語は皆支那官吏のために支那人が作つた適切語であるのである。この實例を一々細かに擧げてゆけば、到底その煩には堪へないから省略する。馬賊上りのあの張作霖の遺産が二三億あつたと謂ふし、新時代の新人物として支那インテリ青年の崇拜人物、また珍らし

く蓄財せぬと云はれてゐる蔣介石ですら、私産五千萬圓以上だといふ評判である。以て如何に支那軍人や官吏が大金儲けをするかを知るべきで、日本内地の公吏などが、小金をちよろまかして檢擧されるのとは丸でケタが違ふ。

これは極く最近の珍だねで異例に屬するが、四五年前滿洲建國當時中央政府が新京と定まり、各役所が一時に林立された當時、一滿人にして三つの姓名を作り三つの役所に通勤し、一人三役俸給の三重取りをせ占めてをつたのが後になつて發覺した事がある。これなどは、どこの國にも見られない支那ならではの圖で、如何に支那では官場といふものを、不眞面目に取扱つてゐるかが分るであらう。

この類の事實を拾ひ集め、支那官吏の腐敗を擧げ來つたら際限がないが、要するに支那官場のみならず、社會各方面に於て複雑した、表裏明暗の甚だしい矛盾が無限にある。みな支那及び支那人を知る上に於て注意しなければならぬ。

那個小孩子很活便

あの子供はよく氣がつく

37. 支那人の附合や義理

彼等は日常附合ひや、義理を非常に大事にする。支那の諺に「人情送良馬、諸員爭小利」といふ言葉があるが、この意味は日頃の附合ひとしては、良馬も惜しまず贈るが、商賣ならばタツタ一錢のことでも争ふと云ふ意味の格言である。それ程、附合ひと義理を大事にしてゐるのである。是等は支那人の美點と言つて宜しい。

素々、日本人程外面の悪いのはなく、外面の好いのは何といつても支那人が第一である。支那人が凡そ人に接する時は、何時も春風駘蕩として

和かな態度を持して悠々堂々たる者が多い。そこになると日本人は内心は暫らく措き、誠にいかつい面を常にして、それが男らしいとしてゐる。さもあらばあれ、外面のいゝ支那人が必ず内面が悪く、外面の悪い日本人は必ず内面がいゝといふ譯にも行くまい。正心誠意を以て永年彼等と交際往來した時、支那人程眞味の深い人間はないと思ふ。殊に北支人に所謂オツチヨコチヨイ風な支那人は稀にして少ない。但し商賣となるとそれははつきりけぢめをつけることは、他のページでも注意した通りである。

瞎猫碰死耗子

犬も歩けば棒に當る

38. スピードと慢慢的

何んでもスピードの出ることに於ては、日本人は世界の選手であらう。満洲でも分る通り、大連、奉天、新京、哈爾濱等、露西亞人が十年かかつても出来ないやうな市街を、日本人は近々二、三年で忽ちに造り上げてゐる。さて反對に慢慢的といふことになる、支那人はこれ又世界の選手であらう。支那人は今日のことは明日、明日のことは明後日といふ風がある。殊に北支人は常に悠々たるものがある。

その代り、日本人ならば、二、三年で飽きてしまふことも、支那人は五

年、十年、コツ／＼として仕上げて行き、日本ではとても出来ないやうな
大事業を立派に完成する。例へば、『大藏經』の翻譯や、『四庫全書』の編
纂は、果して何年掛つたであらうか。大同にある雲崗の石佛を刻むのには
前後二百年を費やしたといふ説もある。あの日本人の夢にでも見られない
やうな長さ千八百里の萬里の長城を築くのには、昔果して何百億圓掛つた
ことであらうか。デカイことにかけては吾々日本人は、とても支那人には
追ひ付かない。

だから、支那人の慢慢的を輕蔑する資格は日本人にはない筈だ。大日本
人となつた吾々は、今後世界人の目をむくやうな大事業を百般に亘つて計
畫し、建設して行く大抱負があつて然るべきだ。

好事不出門、坏事傳千里

好事は傳らぬが悪事千里といふね

39. 敬老の美風未だ存す

敬老の美風は今日日本では餘程衰へてゐる。老人を勞はるどころか、時代遅れの遺風として蔑視するのが、今日日本インテリ共の傾向である。この輕薄な思想感情は、西洋の所謂優勝劣敗の實力主義からも來た點が多分である。儒教では孝は百行之本と稱して敬老を大いに訓へてゐるが、支那にはその美風未だ存すと確言したい。

孔子の教が理論のみ残つてゐるに不拘、老人を尊重するといふことだけは、外觀だけでも、今の支那にはつきりと残されてゐる。時に支那人が長

髯を蓄へた日本の老人に接すると、苦力みたいな下等勞働者でも態度を改め、非常に敬意を表する。實際精神はともかく、善良な支那の一風俗としてこれは感服に値ひする。

老人で思ひ出したが、支那の老人は悠々自適、自然を楽しみ、ゆつたりとして長者の風格があるに引きかへ、日本老人の相貌は疲れ過ぎてゐて、いかつく見えたり、苦み走つてをわたり、意地悪さうであつたり、戦々兢兢とした體に見受けるのは、どういふものであらうか。

かくいふと、餘りに日本老人を最負目に見てゐないやうで悪いが、支那へ行つたら、彼地の老人に敬意を表すると同時に、よく老人研究をして見るのも一興であらう。

有聞必録

聞いたことは必ず書きつける

40. 天下の美都北京

最近約二十年振りで、北京に遊んで見た。北京は舊態依然、今より四十年前初めて知つた、丸であのまゝの北京の姿であり、それといふのも皇軍の占領する所、何等の戦禍なきを見て、無上に嬉しかつた。支那各地の汚ない都會を歩き廻つて北京城内に入つて行くと、あの雄大な宮殿を中心の大規模な美観、いかにも雅やかな、ゆつたりとした典雅な都に見える。我國の京都に行くと、誰でも、直ぐに美感と静寂を覺えるが、玉に瑕は、何となくせゝこましくすべてが小規模だ。そこになると、北京は總てが大規

模であり、おちつきがあり、都らしく如何にも大國の大都らしい空氣に満ちてゐる。

全く居心地の好い北京、嗚呼こんな天地でウンと朝寢でもして、天下の經綸でも廻らして見たいやうな氣持が誰でもするらしく、直ぐにみんなが北京好きになる。歐米式のあの不自然な世界のどこの都會に比しても、北京は自然味豊かにして、美術的に統制の取れた優れた都である。昔この大都を造り、今に至るまでこの都に悠々と靜かに生活する支那人のことを思ふと、支那人とは容易ならぬ大國民だといふ感じがする。そして、それが四十年來支那に在つて、支那人と親密に交はつて來た著者の實感であると白狀する。

以上北京城内の建築美、自然美を語つたのであるが、人情もまた美しく、二十世紀の輕薄さなど薬にしたくもこの地にはない。風俗また敦厚にして、旗人娘の服装、髪飾りは、道行く人士を恍惚とさせる。加之、北京語には半濁音は多いが、純然たる毒々しい濁音はないから、發音が澄み切つてゐて、婦女子の話など音樂的でとても美しく、聞き惚れてしまふ。それから食べ物がまた大變である。何を食べてもうまく食べさせる。日本人の好物としては先づ名物の燒鴨子、羊肉鍋子、炸醬擱麵、さては通州醬、保定府鹹菜など、どれもこれも北京通が涎を流す食べ物である。北京に長命老人が多いのも宜なる哉である。

淹死是會水的

よく泳ぐ者は溺る

41. 北支と南支

廣い國だけあつて、北と南とでは、言葉は勿論だが、習慣も生活も違つた點が多い。南船北馬といふと、南は川が多くて船に乗る場合が多い。北は大體で未開地多く、馬に乗る場合が多い。南では大體米食であるが、北では米よりは上流で麥粉下流で粟、高粱、包米を常食としてゐる。北方人は朴訥で、正直で、天地自然に悠々自適してゐるが、南方人は小利口で、狡猾で、極めて敏捷である。殊に南の端の廣東人などは、極めて鋭敏であり、神經質である。これはどちらかかと云ふと、日本人の神經質なのに近い。北

方人はよく呵々大笑するが、南方人は餘り大きな聲を出さない。

この南方人といふのは、古南北朝時代の南方人、今の中支人ではなく、それよりずつと南即ち南越地方人の血を受け、遠く中國を去つた所謂南蠻人が主な爲めであらうが、何としても所謂中國人には大人の風がある。この南北の支那人は、同じ支那人ではあるけれども、ピッタリ相融和すると云ふことは困難だ。どちらからとも、互ひにいがみ合ふと云ふ氣持があるらしい。この南北によつて性格の違ふ點を、よく吾々は鑑別して、それによつて適したやうに附合ひするがよい。

南北言葉の違ひの如きに至つては、一々説明することが出来ぬほど違つてをり、南北全然相通じない。尤も言葉は南北で違ふだけではない。既に

地方々々夫れ々々違つてゐる。然し北支五省と滿洲は大體北京語で通ずる。

ヲオシニイチンシニイバオ
落水擒水泡

溺るゝ者藁をつかむ

42. 名前と號

支那人の中流以上の階級なら、必ず名前の外に號を持つてゐる。例へば王陽明の陽明は號で、王守仁の守仁は名前である。また蔣介石の介石は名前前で、蔣中正の中正は號である。であるから、彼等の名刺には真ん中に姓名が書いてあつて、左の方の隅には原籍と號とが必ず印刷してある。初對面の時は相手から號は訊くけれども、名前は決して尋ねない。名前を訊くことは失禮になる。手紙を出す宛名にしても、必ず姓と號とを書いて、名前は書かない。

付き合いが深くなり、君、僕といふ親密な間柄になつても、呼ぶのに名前を言はずして、この號を呼ぶ。然しその號に〇〇さんのさんに當る先生とかいふ言葉を附けずに、單に號だけを呼び捨てにするが、これは餘程親しみのある言葉である。従つて、逆に此方は自分の號を言はずに、謙遜して名前をいふやうにする。手紙を出す場合など、此方の號を書くことは禮儀を失ふことになるのである。

越要緊越得慢

急がば廻れ

43. 夏と冬の服装に就て

先づ夏季に就て注意する。支那人は、夏の暑い場合など、腰から上を脱ぐ。例へば走つてゐる俵夫を見て御覽、彼等はズボンはチャンと穿き、靴もチャンと穿いてゐる。ところが腰から上は脱いでゐる場合が多い。日本人を考へて見ると、その反對だ。ズボンを穿かず、腰から下はむき出し、跣足になり、褌一つになつてゐる。然るに腰から上は法被を着るとか、薄い物を着るとかして、必ず全部は脱がない。全く上と下とが支那と日本とは逆になつてゐる。

日本人が腰から下を露出して、褌一つでゐると、支那人は非常に珍らしがる。殊に日本婦人の裾が開けて、足から股の邊がチラ／＼見えるところを見ると、無性に變な顔をして見てゐる。その他、夏日本婦人が晝寝などみだらな風をしてゐるのを見て、支那人が變な氣を起して間違が起る場合が、満洲の日本人の家庭に往々にしてある。郷に入つては郷に隨へ。どちらかと云ふと、下を露出するより上を露出した方が見苦しくないから、支那人から蔑視されるやうな服装はしない方がよい。

今度は冬の服装だ。寒い満洲で、日本人が人を訪問した時、よくブル／＼震へながら瘦我慢をやつてゐることがある。これを見た支那人は、同情すると云ふよりは、防寒の用意すら出来ないのかと哀れに見下す風がある。

滿洲で中流以上の者で、冬季毛皮の一枚も着てゐない者はない。零下二十度以下の寒さだから、當然の話である。然るに日本人の瘦我慢をこの場合も發揮して、内地と大差ない服装をしながら、なあに、寒いもんかと、兩肩を張つて空威張してみせる。間違も甚だしい。

支那人で毛皮の着物一枚でも着てゐないといふことは、貧乏を看板にするも同然で、恥にこそなれ決して名譽にはならない。大體支那人は自然に順應し、抵抗しない。これに引きかへ、日本人は自然征服などと烏澁がましい音を吹いて、精々自然に反抗する心理を有つてゐる。要するに、支那に行つたら、毛皮の外套一つも早速作ることである。

巧媳婦做不出無米粥

無い袖は振れぬ

風俗篇

44. 利己的個人主義の彼等

支那には古來、個人主義がよく發達し、しかもそれが徹底してゐる。外見的には、近年蔣介石一派の青年達が、國家意識を持つに至つたやうに見えるが、まだくで、それく利己的個人主義の集團に外ならない。即ち、一身上利益のある所、蠅が蜜に群がるやうに集合し、一から十まで利益本位の烏合の集に近いものである。

元來、支那人の君臣關係は、吾々日本人とは全然異ふ。日本人はその國體の成立からして、生れながらに君臣關係が出来てゐるから、勅語でも爾

臣民と仰せられてゐる。則ち、臣と民とは離すことは出来ぬ全く一緒である。ところが支那人は官に仕へて祿を食んで後初めて臣となるのである。即ち、役人だけが臣で、一般人はまだ民に止まるのだ。だから支那人の忠は祿を頂いた恩返しおんがへの忠であり、何も貰はない一般人民には忠義を盡くす観念はなく、又その必要もない。

支那大衆にとつては支配者か他民族であらうと、ちつともかまはぬ。即ち、帝王が蒙古人の成吉思汗、韃靼人の康熙、乾隆兩帝或は滿人の愛親覺羅であらうと、善政を行つてくれる限り漢人種は満足してゐる。支配者などは雇ひ番人位ばんにんぐらゐにしか考へてゐないのであらう。この謂はゞ外國人でもこれに臣事すれば支那人は、儒教の教によつてそれ／＼忠義を盡くす。近

代には曾國藩の如き大忠臣も出てゐる。が然し、一般民衆に至つては一向知らぬ顔である。たゞ自分達の利益になることだけをして、我不關焉の態度精神で終始してゐる。

だから蔣介石がいくら頑張つて見ても、單なる軍閥強權で、善政を布くに非んば人民は到底心服する筈はないし、これが顛覆すればそれまで後は野となれ山となれである。この理で日本と戦争せずとも、早晚國民黨政府の崩壊は必至にして自然の理であることは、支那歴史の示す通りである。この日本人と國家觀念が根本的に相違してゐることは、吾々が支那人を観察する場合に最も大事な點である。支那人には自分のこと、利益のこと以外に國家なく、忠義もないのである。故に支那では、王道とは安民樂業

の外にない。安民とは人民をして安じて食はせるといふことである。食ふことが出来る間は人民は王者として尊敬し、服従するのであるが、食へなくなれば所謂革命をやる。

由來支那二十四朝の歴史は、この易世革命の歴史に外ならなかつたのである。革命とは御承知のやうに、天命の革まることであり、天命とは民の聲であると孟子も云つてゐるやうに、人民が各自の利益からだけ王者を見てゐる。王者に對する觀念すら古來このやうである。

世間生活一般、對人關係に於て、彼等には何も彼も個人主義的利益の外に、標準のないことを知つて欲しい。かういふ意味で、古の政を爲す者は民を愚にして總てを取扱つて來たのであつた。かの「由らしむべし、

知らしむべからず」とは支那の封建制度時代から今日まで、終始一貫易らざる治者帝王の鐵則である。

一體、支那人は、なぜこんなに徹底的個人主義になり了うせたのであらうか。今こゝにその理由を詳論しないが、要するに支那四千年の歴史を通じて、統治者がよい政治をやらなかつたといふことに歸着すると思ふ。それはともかく、支那及び支那人を研究する場合には、この利己、實利といふ彼等の特性を見逃してはならぬ。上は大總統から、下は苦力に至るまで、彼等の生活行動の基調をなすものは、實にこの利己的個人主義の特質である。

かの排日狂奔も、救國運動も、一寸見ると愛國の至情や、大義名分によ

つてゐるやうであり、團結や、統制があるやうであるが、實はそれ／＼自己の取引なり、商策なり、賣名から出た實利本位に基くものであることを牢記してゐなくてはならぬ。

人は舊的好、衣裳新的好

古い友達はいいものだが衣物は新しいがよい

45. 複雑なる支那人の心理

支那人の話には裏の裏、奥の又奥があると考へねばならぬ。別段話すたんに、一々陰謀の存する譯でもあるまいが、習性上誰に向つても、容易に肚を開け、打ち解け話なんかするものではない。彼等の心中常に相手に對する警戒用心がある。然るに吾々日本人はどうかといふと頗る率直で、初對面でも己れの心を直ちに對手の腹中におき、何から何まで打ち解け話をやらかす。これが爲め、公私上想はざる不利損害を招くことがあるから、戒心しなければならぬ。尤も相手の腹中に直ちに己の心をおくといふこと

は、日本人特有の美點で眞に結構な性格である。禪などの三昧境といふのも程度の差はあれ、畢竟この境界に外ならぬと思ふ。日本人のこの美しい性格は禪から來たのかも知れないが、寧ろこの性格の故に、禪が日本に特殊な發達をしたものだらうとも思はれる。

支那では禪が一部特殊階級のものに止つて、一般民衆のものとならなかつたとも思はれるのであるが、その證議は學者にまかせるとして、兎に角日本人のこの淡泊な性格で支那人に對すると、時々ひどい目に逢ふ。向うは苦勞に苦勞した國民だし、日本國民は國際的には苦勞の足らない坊つちやんだからであらうが、あの強か者の支那人に譯なく、一ぱいも二ぱいも喰はされる。それといふのは支那人をしてかうした態度を取らせる所以は、

例へば貨幣にしても贖物がさらにあり、書畫骨董にしても、殆ど贖物だけである。その他百般社會事象ばかりでなく人間も勿論さうである。さういふ事情に置かれては、なか／＼用心警戒するのも止むを得ぬことである。それ故若し眞物と分れば珍重置かぬし、信頼するに足る相手と思へば、深く信じて一切萬事を依頼して來る。だから日本人は彼等と交はるに、いきなり肚を見せるといふことを控へて、徐々に交際を深めて行き、誠意のある吾々であるといふことを、知らせるやうにする心掛けが必要である。

狐假虎威

虎の威を借る狐

46. 孔子老子の言葉の裏

東西均しく聖典といはれるものはその時代、その地方の人民の缺點、弱點を戒しめ訓へてゐる。例へば『論語』の中に幾多の格言、名句があるが、その言葉は大凡そ支那人の缺點や、弱點を戒めてゐる。

今論語や老子などの中から思ひついた名句を並べる。この格言の裏を解釋して見ると、それから支那人の生活、習慣が窺はれ、彼等の性格を知ることが出来るのであるから、『論語』を日本に於ける解釋とは別に再び検討し、解釋して、支那人の習性を深めるのも面白い。といふのは、日本

に於ては、これ等格言をそのまゝ受けてその性格を陶冶し、生活することが出来たが、支那人はかくの如くその缺點を指摘されるや、それを單に理論として學修し、形式的にだけしか取入れなかつた。だから表面如何にも形が整つたやうに見えても、内實に於ては依然としてその缺陷、弱點そのまゝである。

小人閑居爲不善（大學）

小人閑居して不善を爲す。

聲色之於以化民末也（中庸）

聲色の以て民を化すに於けるや末なり。

貧而無諂、富而無驕（論語）

貧にして諂ふ無く、富みて驕る無し。

君子不器 (論語)

君子は器ならず。

民可使由之、不可使知之 (論語)

民は之に由らしむ可し、之を知らしむ可からず。

己所不欲、勿施於人 (論語)

己の欲せざる所人に施すこと勿れ。

死生有命、富貴在天 (論語)

死生命有り、富貴天に在り。

父爲子隱、子爲父隱 (論語)

父は子の爲めに隠し、子は父の爲めに隠す。

有言者、不必有德 (論語)

言有る者は必ずしも徳あらず。

君子恥其言之過、其行也 (論語)

君子は其の言を其の行に過ぐるを恥づ。

謀道不謀食 (論語)

道を謀りて食を謀らず。

安居樂業 (後漢書)

居に安んじ業を樂しむ。

女子與小人難養 (論語)

女子と小人とは養ひ難し。

見レ危致レ命（論語）

危きを見て命を致す。

明哲保身（詩經又、中庸）

明哲保身

安レ分守レ己

分に安んじ己を守る。

殺レ身成レ仁（論語）

身を殺して仁を成す。

過則勿レ憚レ改（論語）

過つては則ち改むるに憚ること勿れ。

禮之用、和爲レ貴（論語）

禮の用は和を貴しと爲す。

狎ニ大人ニ侮ニ聖人之言ニ（論語）

大人に狎れて聖人の言を侮る。

禮云禮云玉帛云乎哉（論語）

禮と云ひ禮と云ふ、玉帛を云はんや。

爲而不レ恃、功成不レ居（老子）

爲して恃まず、功成りて居らず。

大道廢有ニ仁義ニ（老子）

大道廢れて仁義有り。

自是者不彰自伐者無功（老子）

自らは是とする者は彰かならず、自ら伐る者は功無し。

聖人無常心以百姓心爲心（老子）

聖人は常の心無し百姓の心を以て心と爲す。

治大國若烹小鮮（老子）

大國を治むるは小鮮を烹るが若し。

報怨以德（老子）

怨に報ゆる徳を以てす。

善戦者不怒、勝敵者不爭（老子）

善く戦ふ者は怒らず、敵に勝つ者は争はず。

天之道不爭而善勝、不召而自來（老子）

天の道は争はずして善く勝ち召かずして自ら來る。

天網恢々疎而不失（老子）

天網恢々疎にして失はず。

和ニ大怨ニ必有餘怨（老子）

大怨を和すれば必ず餘怨有り。

信言不美美言不信（老子）

信言は美ならず、美言は信ならず。

和光同塵（老子）

光を和らげ、塵に同じうす。」

上善若水（老子）

上善は水の若し。

佳兵不祥之器（老子）

佳兵は不祥の器なり。」

知不足者富（老子）

足るを知る者は富む。」

自勝者強（老子）

自ら勝つ者は強し。

知者不言言者不知（老子）

知者は言はず、言ふ者は知らず。

人不可無耻（孟子）

人以て耻無かる可からず。

人之易其言也無責耳矣（孟子）

人の其の言を易くするや責無きのみ。

47. 支那人の信用

支那では、民間の信用制度が非常に發達してゐる。全く日本以上に進歩してゐると言つてよい。それだけに最初容易な事では人を信ぜぬが、一人信用したとなつたら、親兄弟以上にその人の爲めに盡くす。あの利慾に長けた支那人が、この場合だけは例外で、進んでその人の爲めに犠牲になつて自己を顧みぬ所など、天晴の心掛けである。

支那で偶々信用を得た日本人が、支那人から金錢上や何かで非常に世話になつて、餘りの心盡しに困るほどの實例が往々ある。この美風は極めて

下等な労働者間でも、左様であつて、我が國の徳川時代の俠客に見るやうな見上げた「仁義」の行爲があつて、感心させられる。これは前項に説いたやうに支那は萬物皆賈物ばかりに満ちてゐる社會だから、人でも眞實の人に會ふと珍重するのであらう。

これは事の序に事實談を擧げておくが、在支各處の、日本人經營の日用品雜貨屋などが、同胞の日本人を信用せず、容易に掛け賣を肯んぜぬが、相手が支那人だといふと、それなら大丈夫だと一も二もなく信用する。日本人同志間に如何に信用がないか、豫想の外で、まつたく同胞間の面汚しである。

耗子ヘオツ纒ツアイチ知耗子ヘオツ路ル
蛇ジヤの道ミチは蛇ヘビ

48. 報恩感謝の念に就て

支那人をよく忘恩的人種だと批評するが、これを一應再検討して見る。
一體報恩といふことに就て、支那人は一種の思想と言ふか、習慣と言ふか、吾々には一寸解し難い哲學を持つてゐる。例へて見れば、或人が慈善事業やその他永年に涉つて社會に貢献したとする。かういふ場合、支那人は大いにその徳を賞し、習慣により萬年傘を贈り、音樂を奏して賑々しく感謝の意を表したり、石碑を建てたり、或はその篤行家の家の門に大きな横額を掲げたりするが、支那人はそれだけすると、あとはけろりとして何

だか忘れてしまつたやうな態度である。吾々日本人は一度恩を受け、その人の徳に感ずると、生涯二六時中、精神的に感激を續け、崇拜敬慕し、何時々々までも報恩を忘れないといふ風があるが、支那人はさうではなく、物質的に代償的なところが大いにある。

既にその人の善行に對して、額を贈り、石碑を建て、大いに頌徳の意を表した以上、最早十分報恩感謝の行爲は盡くしたと解釋するらしい。だからもうそれで宜しい。もうこれ以上する必要はないと言ふやうな氣持があるのではないかと、吾々に思はれる節がある。これは支那人心理の解剖で、必ずさうであるとは自分も一寸斷言出來にくいが、支那に住む者は大なり小なりかういふ場合に出遭ふと思ふ。その場合はよくよくその心理状

態を判斷して見て、一概に忘恩的だと片付けてしまはぬがよろしい。

また小さな他の例を挙げれば、支那料理屋に招待されたとする。宴席には入つた時相當丁寧にお禮を述べるが、宴會がすんで歸る時はもう大して挨拶をしない。況してその翌日なりその後には再會した時などは、殆ど口にも出さない位である。これなどは日本風と全く反對で、吾々にして見ると後になる程却つて鄭重なお禮をクドク述べるのではないか。これらはその土地土地の風習だから一概に是非を言ふべきでない。

フバマンツベチヤン
不怕慢只怕站

おそく共休むな

49. 支那人は向上心に乏し

日本人ならば、貧家の子供などで、役所や會社などの給仕になつて、夜間は夜學にでも通ひ、苦心慘憺して將來大成の夢を見るといふやうな青年が多いが、支那人は一たん自分に職業が與へられると、それに安心立命する。即ち、安分守己の格言に従ふといふのが彼等の信條になつてゐる。假令、給仕であらうとも、小使であらうとも、一旦得た職業を大事にして、生涯辛抱し通すといふ習慣となつてゐる。

これは支那人の保守、忍耐、分に安んじ、天職に甘んずるといふ心理作用

用から來るのであり、これが爲めに一つの仕事を一生涯かゝつてやり通すといふことにもなるが、吾々外國人が支那の子供をボーイとして使つた場合など、若しその子供が伶俐であり、將來有望であると言ふやうな場合は、よく親切に世話してやつて、將來立身出世が出来るやうに導いてやることも必要である。それはさうしてやらぬと、その子供は自分で自分の運命を開拓しようなどとは、決してしないからである。

この性格の由つて來る理由は、結局、支那人全體を支配してゐる恐るべき宿命觀にあるのであらうが、これあるが爲めに支那人から勇猛果敢、進取的な氣象が全く取り去られてゐるのである。

謀事在人、成事在天

事を謀るは人に在り、事を成すは天に在り

50. 沒法子と宿命觀

この語は露西亞のニチエウオといふ語と共に、大陸的な語として世界的に名高い。沒法子を直譯すれば「仕方がない」となるが、どうして〜そんななに、簡単に片付けられるべき語でない。すべて失敗し、どうにもならず、行詰つた時、最後に叫ぶ語で、運命に服従しました、きれいにあきらめました、といふ深刻な意味があり、一方には誠にあつさり、身を投げ出した時飛び出す語である。

支那人が死刑の宣告を受けた時、沒法子と一言叫ぶさうである。孟子

に「命に非る無し」といふ言葉があるが、支那人は自然を尊重して、成行にまかせる風がある。日本人は諦めが早いといふが、支那人の諦めといふ段になると、日本人のやうに一度悔んで、それから諦めるといふ女々しい點が少しもない。全く「命に非る無し」と直覺してしまふらしい。これを以て見れば支那人は立派な運命論者である。

それにしても物事をきれいな薩張りあきらめる場合「没法子」で打切るのは、大まかな大陸氣分のする語で、吾々も大陸を永住地とするなら、こんな風に暢氣に樂天的になりたいたいものである。さうしてこれは支那人の自然を重んじ、自然に順應する習性から來るのである。黄河の水が古來何度氾濫しても、なか／＼治めやうともしないのも、彼等一流の自然尊重からで

あらう。鳥が流されても没法子、首が飛んでも没法子である。

人不求人一般大
人は相見互ひ、世は助け合ひ

51. 皇道と王道と道教

儒教は孔子の教である修身齊家、治國平天下を實現するの道載せて經書に在る。故に約してこれを言へば、儒教とは孔子が經書に示した仁愛の教をいふのである。この儒教は支那にあつては漢以後盛になり、その後支那歴代の政治、教育、倫理、歴史みな儒教を本とするやうになり、しかも儒教の中正を尙ぶ思想は中庸を喜ぶ支那の國民性と相契合するところがあつて、益々盛行し、苟くも士人以上の國民は、その思想並びに道德生活の基調を凡て儒教の上におくやうになつたのである。同時に、古く支那文化

を輸入した我日本に於ても、佛教の影響を除いては、儒教は固有の日本精神及び國民道德と相契合して思想及び實踐道德の規範となつた。

だから日支兩國の中堅たる士人の提携には、この兩國に共通する儒教を以てするのが、最も有效適切であることはいふまでもない。然し、支那に於て儒教が政教の標準になつたとはいへ、その實儒教の眞精神が政治及び其他日常生活に、そのまゝ實行されてはゐない。勿論、孔子は實踐的道德を説いたもので、決して豫言者としてまた哲學者として空理を説いたのではないが、儒教は主として支那政教の理論的方面及び士人學者等の日常生活の儀禮、即ち形式的方面に行はれたに過ぎず、士人以下一般支那民衆の道德生活は、道教に律せらるゝところが甚だ多い。

道教は、勿論儒教と佛教の教義及び儀式を取り入れ、これに支那古來の幽玄な神仙説やその他の民間信仰などを配合したものであり、此處にも多少儒教の影響がないとはいへないが、儒教の勢力範圍は、主として政教の理論的方面、及び士人生活の儀禮的方面にある。これに反し日本に於ける儒教は、前言の如く固有の日本精神及び國民道德と渾然融合し、實踐されて來たのである。支那では實行されざるが故に必要論が益々高調され、痛切に論議される。支那の儒教が理論的に發達したのはその爲めである。實行される處には論議の必要がない。日本の儒教が支那に比較して理論的に發達しなかつたのは亦その爲めである。即ち、日本は不言實行である。これを我日本の皇道と支那に於ける王道とに就いて考ふるに、王道は王

者の徳を以て人民を教化し、人民はその徳を體して王政を翼賛し、君民その徳を一にするのがその建前であり、この王道を樹立實現するのが儒教の本領である。然るに支那は元來霸道の國である。優越せる武力の所有者は、前朝を倒して新に帝業を興し得る國柄で、歷朝の創業者は皆馬上天下を取つた覇者である。覇者は力を以て仁を假裝するもので、王道からいへば異端である。

王道は即ち徳を以て仁を行ふもので、君民一徳、國治まり民懷いた時、そこに放伐も革命もあり得ない。支那で古來易性革命の絶えず行はれたのは、王道の行はれなかつた證據である。勿論、或る時代ある程度の王道は行はれたであらうが、支那四千年の歴史を通した一貫した王道の實現はな

かつた。王道が實現されなかつたので、革命の慘禍が反覆され、その慘禍から國民を救ふ爲に、反動的に王道が力強く叫ばれ、これに因つて王道の理論は發達した。

然るに、我日本に於ては、御歴代の天皇が御聖徳を以て臣民を愛撫し給ひ、臣民はその御聖徳を奉戴し悦服して、絶對の忠誠と尊敬とを捧げ、眞に君民一徳一心となつてゐる。これが即ち我國の皇道で、王道の眞髓を體現したものである。その他日本魂といひ、武士道といひ、忠孝の觀念といひ、みな儒教と相契合するものであつて、それらの實行は即ち儒教の實踐である。

かく考へて來ると、支那には理論あつてその實行なく、日本には儒教の

實行があつてその理論は支那のやうに盛ではなかつたといつても、誤ではあるまいと思ふ。故に、吾人は今後この皇道を基本とし、儒教と契合するところの日本精神を以て支那人を導き、これに因つて彼等が治者被治者、一徳一心相協力して徳治主義を實行し、同時に日支人俱に、日常生活上の實踐的規範を儒教に求め、兩者その道を同じうすることに因つて、始めて日支兩國が眞の友邦として確實に相提携し、親善を緊密にすることが出来ると思ふ。

近來の支那學生その他一般知識階級の人々は、儒教などを骨董品同様に考へ、今頃儒教の講釋などに耳を傾ける者もないであらう。王道などいへば、日本人の爲にするお談義位に思ひ、一言で貶すであらうが、これを復